

第1部

# 気象庁の運営

# 1. 組織の変遷

## 歴代気象庁長官

表 1-1-1 歴代気象庁長官名簿

	氏名	ふりがな	就任
1	和達 清夫	わだち きよお	昭和31年7月1日
2	畠山 久尚	はたけやま ひきなお	昭和38年3月26日
3	柴田 叔次	しばた よしつぐ	昭和40年3月31日
4	吉武 素二	よしたけ もとじ	昭和44年3月31日
5	高橋 浩一郎	たかはし こういちろう	昭和46年3月31日
6	毛利 圭太郎	もうり けいたろう	昭和49年4月1日
7	有住 直介	ありずみ なおすけ	昭和51年4月1日
8	窪田 正八	くぼた しょうはち	昭和54年4月1日
9	増澤 譲太郎	ますざわ じょうたろう	昭和55年4月1日
10	末廣 重二	すえひろ しげじ	昭和58年4月1日
11	内田 英治	うちだ えいじ	昭和60年4月1日
12	菊地 幸雄	きくち ゆきお	昭和62年4月1日
13	立平 良三	たてひら りょうぞう	平成2年4月1日
14	新田 尚	にした たかし	平成4年4月1日
15	二宮 洸三	にのみや こうぞう	平成5年4月1日
16	小野 俊行	おの としゆき	平成8年4月1日
17	瀧川 雄壯	たきがわ ゆうそう	平成10年4月1日
18	山本 孝二	やまもと こうじ	平成12年4月18日
19	北出 武夫	きたで たけお	平成15年4月1日
20	長坂 昂一	ながさか こういち	平成16年4月1日
21	平木 哲	ひらき てつ	平成18年4月1日
22	櫻井 邦雄	さくらい くにお	平成21年4月1日
23	羽鳥 光彦	はとり みつひこ	平成23年1月18日
24	西出 則武	にしで のりたけ	平成26年4月1日
25	橋田 俊彦	はしだ としひこ	平成28年4月1日
26	関田 康雄	せきた やすお	平成31年4月1日
27	長谷川 直之	はせがわ なおゆき	令和3年1月5日
28	大林 正典	おおばやし まきのり	令和5年1月5日
29	森 隆志	もり たかし	令和6年1月17日
30	野村 竜一	のむら りょういち	令和7年1月17日

# 気象庁官署配置図



図 1-1-1 現在の気象官署配置図（令和7年6月現在）

## 2. 気象庁の庁舎

### 写真集（中央气象台庁舎）

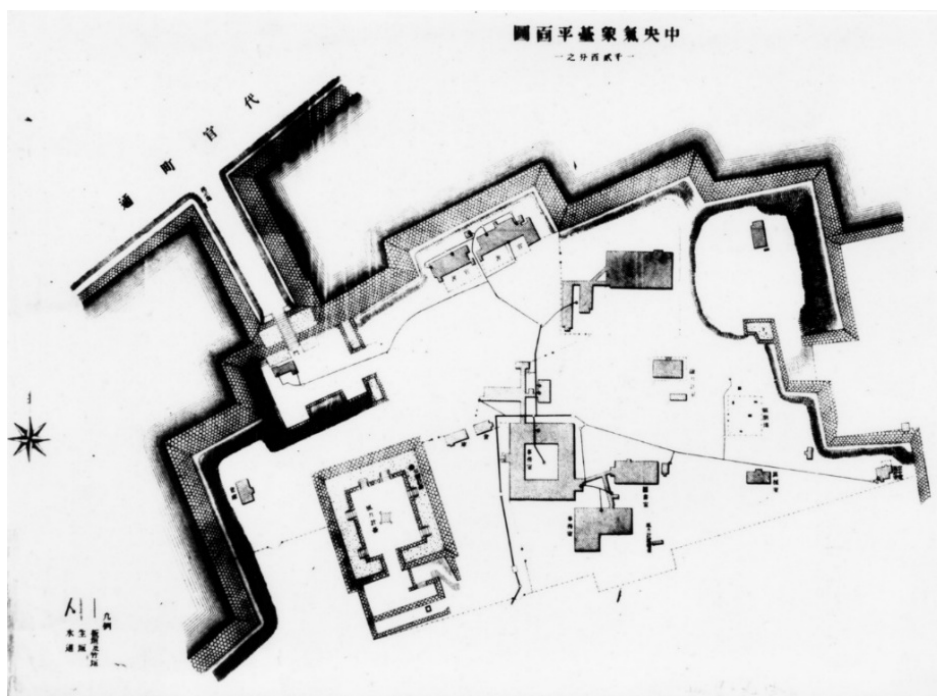


図 1-2-1 中央气象台平面図（代官町時代・明治年間）



図 1-2-2 中央气象台本館（元衛町時代）

# 写真集（中央气象台庁舎）



图 1-2-3 中央气象台 竹平町庁舎（昭和23年頃）

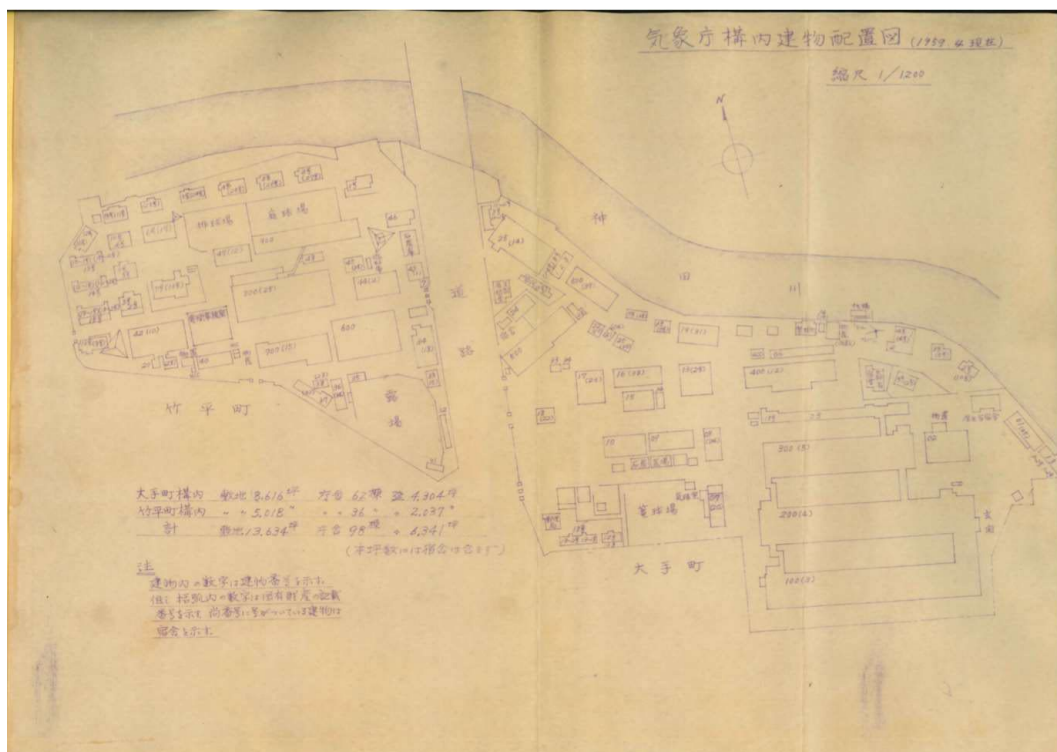


图 1-2-4 气象庁構内建物配置図（昭和34年頃）

## 写真集（気象庁庁舎）



図 1-2-5 庁舎南側（建設中）  
（写真提供：株式会社銭高組）



図 1-2-6 庁舎北側、別館（昭和39年（建築当時））  
（写真提供：株式会社銭高組）

## 写真集（気象庁庁舎）

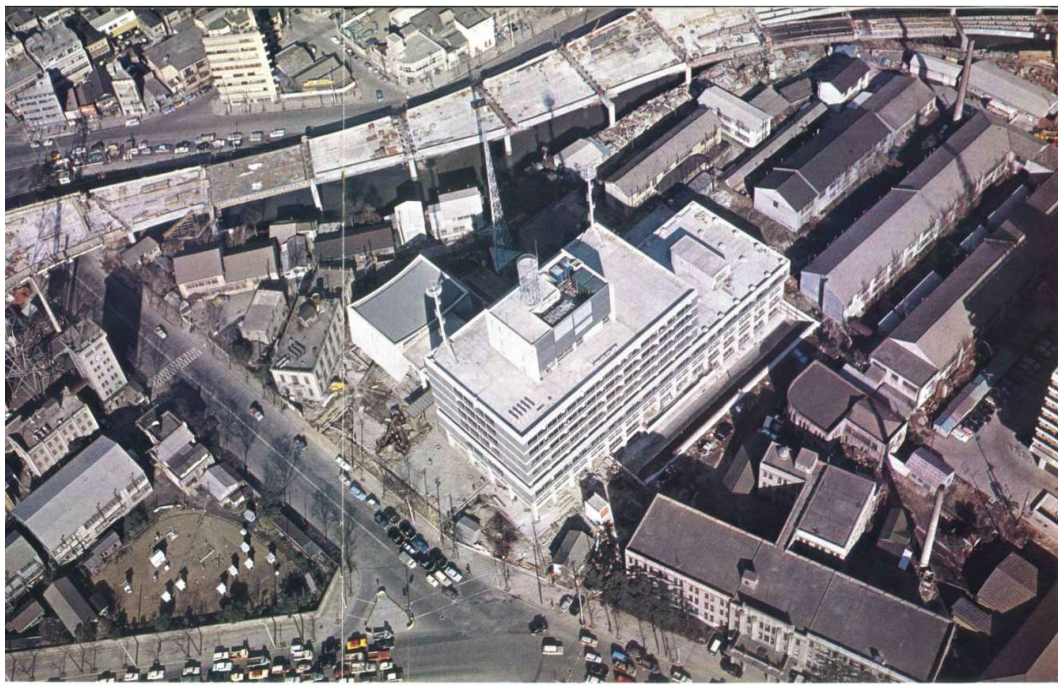


図 1-2-7 庁舎航空写真（建築当時）  
気象庁庁舎竣工記念（昭和39年3月12日）  
（写真提供：株式会社銭高組）



図 1-2-8 庁舎北側、別館 昭和45年ごろ（増築前）

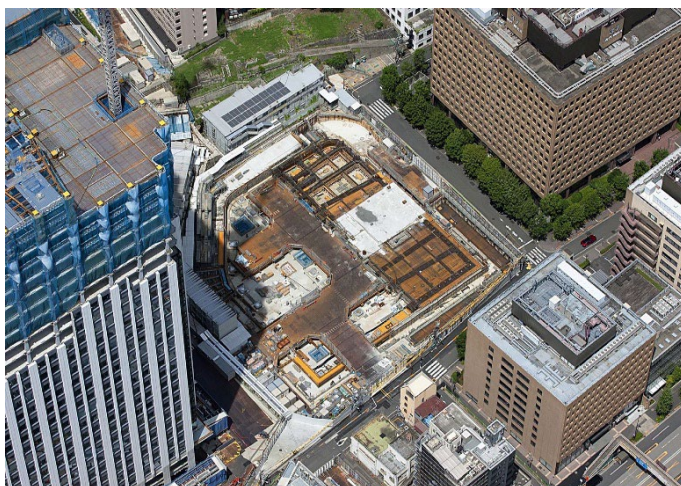
## 写真集（気象庁庁舎）



図 1-2-9 庁舎北側、別館 昭和57年ごろ（増築後）



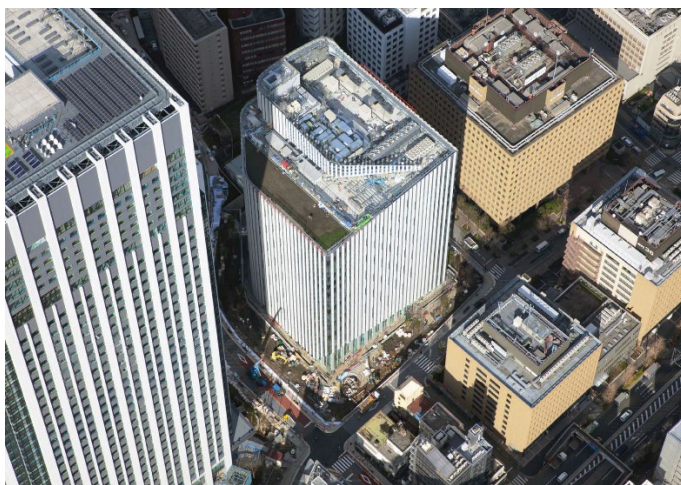
# 写真集（気象庁庁舎）



平成30年（2018年）8月15日



令和元年（2019年）9月17日



令和2年（2020年）1月16日

図 1-2-10 虎ノ門庁舎 建設工事進捗状況

## 写真集（気象庁庁舎）



図 1-2-11 虎ノ門庁舎完成（航空写真）



図 1-2-12 虎ノ門庁舎完成（正面入口）

# 写真集（気象庁庁舎）

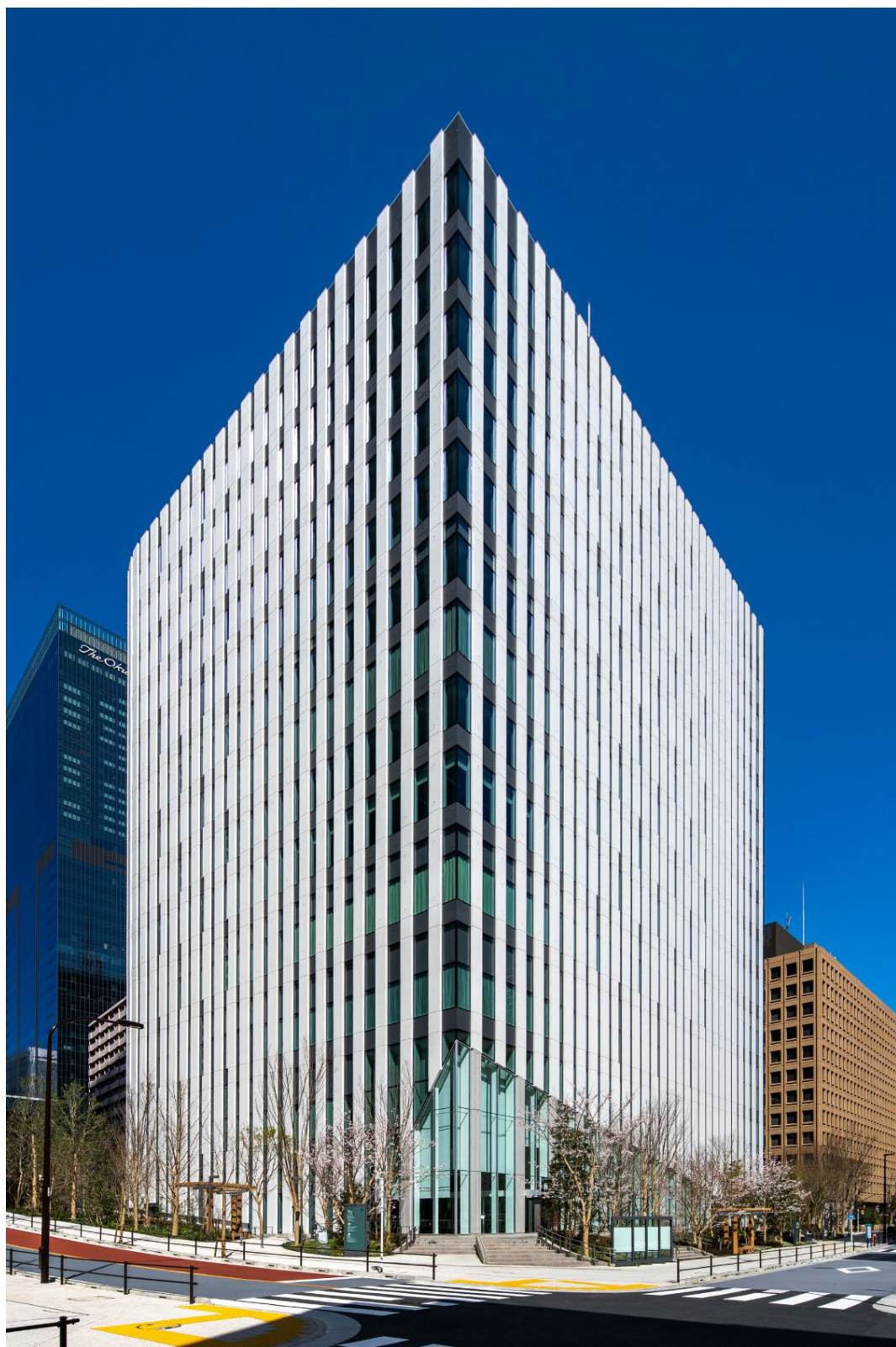


图 1-2-13 虎ノ門庁舎完成（外觀南東面）

# 資料集（新庁舎開庁式典）

## 気象庁新庁舎の落成式行なう

新庁舎の落成式は、3月12日10時30分から別館2階講堂で運輸大臣、政務・事務次官、各局長、建設省、大蔵省などから関係官、国会議員、関係会社、報道関係、米空海軍の気象隊長ら約300名が出席して行なわれた。

まず、高山長官から「創立以来90年近くを経過したが、この間、関係各位のご理解とご支援をいただき、また先輩諸氏の熱意と努力で、気象業務は逐年整備強化されてきた。しかし、庁舎の幾多の変遷を経た間に、再三の被害で運営や資料の保存に支障をきたし、今までの老朽した庁舎では、それらの懸念もあったが、幸い関係各位のご尽力で、ここに近代の庁舎の完成をみるに至ったのは喜ばしい。われわれは、これを契機として、最近とみに高まっている社会的要望にこたえるため、一層努力を重ねる覚悟である。来賓各位におかれても気象業務の発展のため、一層のご理解とご支援をお願いしたい。」旨の式辞を述べ、運輸大臣のあいさつに続いて、関東地方建設局長から「設建省では行政機関を各地区毎に集約する目途で、この大手町も第1合同庁舎に続き気象庁庁舎が新築された。引き続き第2、第3合同庁舎が建築されると、将来13万㎡の敷地に計11万5,000㎡の四つの庁舎が緑の広場を囲んで並び、丸の内ビジネスセンターに続く行政センターを構成することになっている。新庁舎の建築面積27,860㎡、総工費19億6,162万円である。設計は、団地の全体計画と関連を持たせながら、特に公共建築としての合理性・経済性・親近感をもとよ

り、特殊業務のための機能性の充足に重点を置き、合計18社がその持てる技術力と延べ20万人に近い技能労働者を動員して完遂したものである」旨の経過報告があり、施工に当たった関係工事会社に対して、運輸大臣（2件）および気象庁長官（11件）からそれぞれ感謝状がおくられた。

続いて、衆参の運輸委員長、全国知事会会長、NHK会長、気象協会会長らの来賓から「新しい気象庁庁舎の完成は本当に喜ばしい。気象は国民全体の大きな関心を集めており、責務はますます重くなってきている。今までは不便さをよく耐え忍んできたが、これからは非常災害でも中断することなく、気象業務が続けられるよう敷地の嵩上げをするなど細心の注意がはらわれたと聞く。風雨の中を危険をおかして散在する庁舎の間を走り回ったり、貴重な資料が火災で失われる心配などがなくなったわけで、一層立派な予報や観測をしていただけるものと期待している。

新庁舎の近代的な設備を最大限に活かして、国民のために欠くことのできない気象業務につくされることをお願いしたい」旨の祝辞があり、式典を終った。

11時30分からは、本館5階の事務室を利用して、祝賀パーティを行なった。

和気あいあいのうちに、長官のあいさつ、世界気象機関事務局長の祝辞や他機関からの祝電披露、和達前長官からの所感などがあって、13時過ぎ落成式関係行事をどこおりに終了した。  
(総務課)



気象庁庁舎落成式、2階講堂にて

図 1-2-14 大手町庁舎完成時における気象庁部内広報紙の一面

# 資料集（新庁舎開庁式典）

## 気象庁新庁舎開庁式典および 気象防災アドバイザー委嘱状交付式が行われました

総務部 総務課

令和2年12月17日（木）に気象庁本庁3階講堂にて「新庁舎開庁式典」と「気象防災アドバイザー委嘱状交付式」を新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底のうえ挙行了しました。式典には、赤羽国土交通大臣、岩井副大臣、小林政務官、朝日政務官、鳩山政務官をはじめとする国土交通省関係者の皆様と、来賓として「気象友の会」の最高顧問を務める自民党の二階幹事長、公明党の山口代表、港区の武井区長、気象分科会の新野会長、気象業務支援センターの土井会長、大成建設（株）の村田代表取締役副会長ほか皆様にご出席いただきました。

式典では、関田長官の式辞後、赤羽大臣、武井区長、二階幹事長よりご挨拶をいただきました。式典に合わせて行われた「気象防災アドバイザー委嘱状交付式」では、関田長官の趣旨説明後、山口代表からご挨拶をいただき、赤羽大臣から気象防災アドバイザー代表者へ委嘱状が交付されました。

### ○気象防災アドバイザーについて

多発化・激甚化する風水害等の災害に備えるためには、気象台からのホットライン・JETT派遣等の地方公共団体を支援する取組に加え、地域の気象の専門家が、地方公共団体の防災業務を直接支援できる体制を構築することが重要であることから、今般新たに、29名の気象台OB/OGを、防災気象情報の読み解きやそれに基づく助言を行う「気象防災アドバイザー」として委嘱することとしました。

今後も、気象台による首長訪問等の機会を通じて、気象防災アドバイザーに関する地方公共団体への周知を進め、地方公共団体が気象防災アドバイザーに業務を委任しやすい環境づくりにも取り組んでいくとともに、順次気象防災アドバイザーを拡充していきます。



記念撮影①

（前列左から関田長官、山口代表、赤羽大臣、二階幹事長、武井区長、後列左から鳩山政務官、小林政務官、岩井副大臣、朝日政務官）



防災アドバイザー委嘱状の交付

赤羽大臣から防災アドバイザー代表の矢野さん（元銚子地方気象台次長）へ交付されました。



記念撮影②

（気象防災アドバイザー5名を交えて）

図 1-2-15 虎ノ門庁舎完成時における気象庁部内広報紙の一面

### 3. 人材の確保、育成

## 地方気象台等における業務改善プロジェクト テーマと担当官署の一覧

表 1-3-1 地方気象台等における業務改善 プロジェクト  
年度ごとの担当官署とテーマ一覧 (1/11)

年度	官署	テーマ
H11	稚内地方気象台	「防災情報ハンドブック」の製作
H11	福島地方気象台	地域気象情報の改善プロジェクト
H11	宇都宮地方気象台	栃木県内における夏期の短時間降雨に関する防災気象情報の改善
H11	熊谷地方気象台	大雨による埼玉県の災害シュミレーション
H11	和歌山地方気象台	部外観測環境調査と部外データの気象情報への利用促進
H11	熊本地方気象台	気象講座
H11	鹿児島地方気象台	土砂災害データベースの作成及び検索システムの構築
H11	宮古島地方気象台	パンフレット「防災情報利用のポイント」の作成
H12	旭川地方気象台	防災必携の作成
H12	盛岡地方気象台	岩手県災害事例データベースの構築
H12	長野地方気象台	災害データベースの構築と防災情報への利用
H12	静岡地方気象台	パソコンを利用した緊急業務支援システムの構築
H12	福井地方気象台	降雪予測技術の改善に関する調査研究
H12	富山地方気象台	地方自治体における防災意識の活性化と防災情報の高度化に向けた戦略的行動
H12	京都地方気象台	大雨災害データベースの作成
H12	広島地方気象台	平成11年度梅雨前線豪雨災害（広島県）解析
H12	徳島地方気象台	県内防災担当者用「防災気象ハンドブック」の作成
H12	大分地方気象台	気象災害データベースの作成とその活用による防災気象情報の充実
H12	長崎地方気象台	市町村防災担当者向けの「防災気象情報利用の手引き」の作成
H12	宮古島地方気象台	高度な防災情報作成に資するための災害調査資料のデータベース化
H13	函館海洋気象台	北海道駒ヶ岳の火山防災パンフレット作成
H13	山形地方気象台	過去の災害事例による業務支援教材の作成
H13	水戸地方気象台	気象知識の普及と防災情報の広報を目的とした講演資料のビジュアル化と電子媒体 “だれでも要望に応じた2時間の講演を即座に行うために”
H13	前橋地方気象台	災害データベースを活用した防災支援資料の作成
H13	新潟地方気象台	災害速報作成支援ソフトの開発
H13	津地方気象台	「気象解説テキスト～防災気象情報利用の手引き～」の作成

# 地方気象台等における業務改善 プロジェクト テーマと担当官署の一覧

表 1-3-1 地方気象台等における業務改善 プロジェクト  
年度ごとの担当官署とテーマ一覧 (2/11)

年度	官署	テーマ
H13	奈良地方気象台	気象災害及び予報技術データベースの作成
H13	松江地方気象台	県管理の雨量データの防災気象情報への利活用
H13	舞鶴海洋気象台	「海洋気象情報利用の手引き」の作成
H13	下関地方気象台	「防災気象情報のしおり」作成及び市町村防災担当者との防災懇談会の開催
H13	鹿児島地方気象台	数値実験による地域特性を加えた暴風災害及び竜巻災害のデータベース化
H13	石垣島地方気象台	地震・津波災害データベースの作成
H14	網走地方気象台	「オホーツク流氷ハンドブック」の作成
H14	福島地方気象台	予報・警報作業支援用Web（ホームページ）の構築
H14	東京管区気象台	「出前講座」資料作成システムの構築
H14	静岡地方気象台	災害弱者を対象とした気象・防災知識の普及 -よりいっそうの自然災害軽減のために-
H14	名古屋地方気象台	東海地震災害に備えた業務体制・連携強化の構築
H14	広島地方気象台	各種講演会等への講師派遣に対応する講演資料の作成
H14	舞鶴海洋気象台	「災害等危機管理訓練システム」の構築
H14	和歌山地方気象台	「地域防災懇談会」の開催
H14	福岡管区気象台	防災・気象知識啓発普及のための資料作成と部内研修の実施
H14	石垣島地方気象台	防災機関との情報共有化
H15	稚内地方気象台	パンフレット「土砂災害軽減のために」の作成・配布（土砂災害防災マップの作成）
H15	秋田地方気象台	県・市町村防災担当者との連携強化及び地域防災体制、災害特性の把握
H15	甲府地方気象台	「市町村防災担当者の防災意識の啓発と防災気象情報利用の促進」
H15	富山地方気象台	地方自治体における防災気象情報利用の高度化と防災意識啓発活動の推進 - 既作成の「防災気象情報利用の手引き」の拡充と利用の促進 -
H15	岐阜地方気象台	e-気象台教育プロジェクトのコンテンツの高度化
H15	熊谷地方気象台	出展物製作と機材整備によるプレゼンテーション技術の向上
H15	横浜地方気象台	メソ気象予報シミュレーターの試作
H15	高松地方気象台	大雨予測技術の向上を目的とした研修資料の作成
H15	松山地方気象台	愛媛県の地震活動等解説資料作成について
H15	松江地方気象台	注・警報発表作業支援用災害データベースの構築
H15	下関地方気象台	「市町村防災担当者との懇談会の開催」及び「台内プレゼンテーション技術研修会」の実施
H15	大分地方気象台	県内各市町村別の防災体制に関する現業クイックレファレンスの作成

# 地方気象台等における業務改善 プロジェクト

## テーマと担当官署の一覧

表 1-3-1 地方気象台等における業務改善 プロジェクト  
年度ごとの担当官署とテーマ一覧 (3/11)

年度	官署	テーマ
H15	鹿児島地方気象台	防災情報改善のための警報発表事後調査および市町村の防災情報利活用状況調査
H15	宮古島地方気象台	防災情報提供装置を用いた防災解説情報の充実
H16	室蘭地方気象台	防災担当者のためのハンドブックの作成
H16	盛岡地方気象台	火災気象通報高度化の試行を基盤とした市町村等との連携強化
H16	静岡地方気象台	防災気象情報の改善に向けた1キロメッシュの雨量と災害との関係図の作成 (GISソフトの利用)
H16	岐阜地方気象台	環境・気候に関する資料の充実
H16	津地方気象台	分かりやすい防災気象情報の見方
H16	名古屋地方気象台	中小河川洪水予報調査ガイドの作成
H16	名古屋地方気象台	災害・事故発生後の危機管理アクションプラン—有事に対する防災体制の確立—
H16	彦根地方気象台	琵琶湖の強風災害防止に向けた風の実態把握と予測法の調査
H16	和歌山地方気象台	東南海・南海地震津波解説資料の作成 (地域の地震津波防災)
H16	舞鶴海洋気象台	要望調査に基づくHPによる日本海の総合的な海洋気象情報の作成・提供
H16	石垣島・宮古島地方気象台	津波防災パンフレットの作成
H17	釧路地方気象台	子供用防災パンフレットの作成
H17	函館海洋気象台	海上風と波浪の地域特性及び災害マップの作成
H17	福島地方気象台	府県ガイドンス開発へ向けての調査
H17	銚子地方気象台	「千葉県版」地球温暖化教本の作成
H17	新潟地方気象台	融雪情報向上のための、部外積雪データ等による融雪水量の推算と利用のための調査
H17	岐阜地方気象台	降雪量予測モデルの開発にむけて
H17	名古屋地方気象台	V I L (鉛直積算雨量) による短時間強雨の監視・予測のための手引書作成
H17	和歌山地方気象台	津波予報・津波情報画像化ソフトウェアの開発
H17	徳島地方気象台	昭和南海地震の聞き取り調査を含む被災資料等収集及び解説資料の作成
H17	松山地方気象台	解析雨量の精度向上のための基礎調査
H17	清水測候所	95型観測装置生データのPC処理システムの開発
H17	長崎海洋気象台	九州から南西諸島にかけての副振動特性の調査
H17	鹿児島地方気象台	土砂災害警戒情報の広報
H18	根室測候所	地震・津波防災リーフレット「根室地方の地震と津波」の作成
H18	函館海洋気象台	衛星データを用いた海洋・海上気象プロダクトの開発と利用
H18	山形地方気象台	庄内地方の強風特性の調査と暴風警報の改善



# 地方気象台等における業務改善 プロジェクト

## テーマと担当官署の一覧

表 1-3-1 地方気象台等における業務改善 プロジェクト  
年度ごとの担当官署とテーマ一覧 (4/11)

年度	官署	テーマ
H18	福島地方気象台	府県ガイドンス開発へ向けての調査
H18	熊谷地方気象台	ドップラーレーダーデータを利用した実況監視手法の開発
H18	名古屋地方気象台	海上濃霧の実況監視手法の高度化
H18	広島地方気象台	県内市町ごとの災害記録等の掘り起こしと整理（市町との「ホットライン」対応時の情報共有ツールの開発）
H18	松山地方気象台	「やまじ風」に伴う被害軽減に関する調査と予報則の確立
H18	清水測候所	小学生のための気象学習用教材の作成
H18	石垣島地方気象台	可搬型気象実験装置の製作
H19	函館海洋気象台	渡島・檜山地方の突風に関する量的予報プロダクトの開発と利用
H19	山形地方気象台	庄内地方の強風時における暴風警報の改善に向けた基礎調査
H19	水戸地方気象台	茨城県内の地震に関する防災意識の啓発（小学校高学年向け）
H19	甲府地方気象台	指定河川洪水予報拡充に伴う河川災害データベースの構築
H19	岐阜地方気象台	発震機構図の3Dビジュアル研修資料の作成
H19	八丈島測候所	「防災の手引」の作成
H19	岡山地方気象台	地域防災教育への支援
H19	高知地方気象台	小学校高学年を対象とした地震出前講座の充実
H19	長崎海洋・鹿児島地方気象台	副振動監視システムの開発
H19	大分・宮崎地方気象台	JMANHMを用いた夏期熱雷等局地気象の調査
H19	鹿児島地方気象台	九州南部の突風（竜巻）発生の予測方法の開発
H20	釧路地方気象台	GISによる防災情報資料の一元化
H20	青森・盛岡地方気象台	地球温暖化問題についての実践的な広報資料の作成
H20	宇都宮地方気象台	小学校高学年向け地球環境問題の啓発用e-ラーニング教材の作成
H20	横浜地方気象台	気象台ギャラリーラウンジ（展示コーナー）の整備に伴う広報業務の充実
H20	名古屋地方気象台	「伊勢湾台風から50年」企画（展示パネルの作成）
H20	名古屋地方気象台	ビデオオンデマンドによる学習システム
H20	伊豆大島火山防災連絡事務所	大島町四者懇談会機関共有の火山防災マニュアルの作成
H20	三宅島火山防災連絡事務所	三宅島火山防災啓発冊子の作成
H20	浅間山火山防災連絡事務所	浅間山に関する画像（写真、動画等）のデジタル化の推進と、「浅間山防災ハンドブック」の作成
H20	奈良地方気象台	学校教育現場を対象とした地震・津波防災教育のための支援
H20	広島地方気象台	NHMによるJRA-25を使用した過去事例の解析

# 地方気象台等における業務改善 プロジェクト

## テーマと担当官署の一覧

表 1-3-1 地方気象台等における業務改善 プロジェクト  
年度ごとの担当官署とテーマ一覧 (5/11)

年度	官署	テーマ
H20	高知地方気象台	県・市町村防災担当者のためのインターネット防災情報提供システムのビジュアルマニュアル及び気象情報解説マニュアルの作成
H20	長崎海洋気象台	灯台観測風から海上風を推定する手法の実用化
H20	鹿児島地方気象台	九州南部の突風（竜巻）発生の予測方法の開発（2年計画）
H21	稚内地方気象台	パンフレット「土砂災害軽減のために」の改訂版作成・配布と防災気象情報の普及啓発の資料作成
H21	秋田地方気象台	部外者向け啓発資料「気象災害の全てがわかる」の作成
H21	新潟地方気象台	北陸地方における気候変化の解析と啓発資料の作成
H21	名古屋地方気象台	「伊勢湾台風から50年」企画（2年計画第2年度）
H21	名古屋地方気象台	市町村防災担当者のためのビデオ教材（気象災害編）
H21	高松地方気象台	瀬戸大橋付近の強風予測のための基礎調査
H21	高知地方気象台	局地的な大雨に関する防災気象情報の利用促進用アプリケーションの試作（「局地的な大雨から身を守るために」の活用に向けて）
H21	大分・宮崎地方気象台	次期予警報作業支援ツールの開発（－解析雨量の類似事例検索による降水短時間予測の修正－）
H21	鹿児島地方気象台	小学生を対象とした「局地的大雨から身を守るために」の周知・広報
H21	長崎海洋気象台	灯台観測風から海上風を推定する手法の実用化（監視領域の拡大）
H21	南大東島地方気象台	アニメーションによるプレゼン資料作成－台風や竜巻に備える－
H22	網走地方気象台	市町村災害特性資料データベースの作成
H22	函館海洋気象台	地方公共団体の防災対策を支援する「防災情報ハンドブック」の作成
H22	福島地方気象台	市町村を対象とした警報・注意報に係る周知広報用ビデオの作成
H22	横浜地方気象台	神奈川県内の地震・火山防災の解説資料による広報・啓発
H22	富山地方気象台	寄り回り波災害に関する広報啓発資料の作成
H22	岐阜地方気象台	市町村の防災判断を支援するための防災情報の集約と活用
H22	静岡地方気象台	東海地震関連情報の啓発プロジェクト
H22	名古屋地方気象台	名古屋水防災情報共有推進連携会議への参画
H22	和歌山地方気象台	紀淡海峡の局地風に伴う暴風エリアの特定と予測手法の開発
H22	高知地方気象台	地震津波防災の啓発ビデオ制作～「はれるん」と「トラフはかせ」と「ゆかいななかまたち」～
H22	長崎海洋気象台	潮位の副振動（あびぎ）に関する広報及び現地調査の改善
H22	宮古島地方気象台	視覚的効果のある防災・地球温暖化関連説明パネルの作成
H22	石垣島地方気象台	「八重山地方の気候変動」に関する広報・啓発資料の作成
H23	旭川地方気象台	十勝岳：火山広報業務の充実化
H23	岐阜地方気象台	市町村に対する能動的なホットライン実施の判断支援の検証

# 地方気象台等における業務改善 プロジェクト

## テーマと担当官署の一覧

表 1-3-1 地方気象台等における業務改善 プロジェクト  
年度ごとの担当官署とテーマ一覧 (6/11)

年度	官署	テーマ
H23	長野地方気象台	オンライン台風説明会開催のためのコンテンツ作成（長野県防災情報ネットを活用した台風説明会等の映像配信）
H23	名古屋地方気象台	テレビ会議システムによる防災情報提供システムコンテンツを利用した危機感共有の効果検証
H23	岡山地方気象台	地震津波防災及び土砂災害防止に資する啓発資料（教材及びDVD）の作成
H23	高知地方気象台	地震津波防災の啓発ビデオ制作 ～「じしんまん -リベンジ-」～
H23	高知地方気象台	擾乱接近時の雲動画と各種観測データとの対比による教材の作成
H23	徳島地方気象台	地震津波防災に向けた講演会の開催及び津波情報等の利用実態調査
H23	佐賀地方気象台	霧の発生予測ガイダンスとライブカメラによる実況監視ツールの開発
H23	鹿児島地方気象台	鹿児島県沿岸の波浪特性の調査及び気象庁沿岸波浪モデルの客観的補正方法の調査（2カ年計画の1年目）
H23	沖縄気象台	沖縄地方における過去の地震・津波被害に関する資料・文献調査
H24	旭川地方気象台	局地モデルの予報作業への利用に向けた調査
H24	釧路地方気象台	学校防災教育に関する支援資料の作成（教育局との協働）
H24	秋田地方気象台	大雨等の予測に関する500m高度データの効率的な利用法に係る調査
H24	山形地方気象台	大雨等の予測に関する500m高度データおよび等温位面渦位データの効果的な利用に係る調査
H24	水戸地方気象台	茨城県南部の大雨への500m高度データ及び等温位面渦位の影響
H24	福井地方気象台	PC版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H24	津地方気象台	大雨等の予測に関する500m高度データおよび等温位面渦位データの効果的な利用法に係る調査
H24	津地方気象台	PC版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H24	和歌山地方気象台	PC版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査及び普及啓発
H24	松江地方気象台	大雨等の予測に関する500m高度データおよび等温位面渦位データの効果的な利用法に係る調査
H24	高知地方気象台	室戸ジオパークを活用した地震・津波防災に関する教材の作成
H24	舞鶴海洋気象台	海洋観測の部外データの品質管理
H24	関西航空地方気象台	局地モデルの予報作業への利用に向けた調査
H24	長崎海洋気象台	海洋観測の部外データの品質管理
H24	宮崎地方気象台	PC版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H24	鹿児島地方気象台 ・名瀬測候所	大雨等の予測に関する500m高度データおよび等温位面渦位データの効果的な利用法に係る調査
H24	鹿児島地方気象台	鹿児島県沿岸の波浪特性の調査及び気象庁沿岸波浪モデルの客観的補正方法の調査（2ケ年計画の2年目）
H24	沖縄気象台管内共同	大雨等の予測に関する500m高度データおよび等温位面渦位データの効果的な利用法に係る調査

# 地方気象台等における業務改善 プロジェクト

## テーマと担当官署の一覧

表 1-3-1 地方気象台等における業務改善 プロジェクト  
年度ごとの担当官署とテーマ一覧 (7/11)

年度	官署	テーマ
H24	石垣島地方気象台	防災関係機関を支援する災害共有マップ検索システムの構築)
H25	網走地方気象台	地球の温暖化情報に対するニーズの調査と予測データの解析
H25	秋田地方気象台	融雪効果を導入した土壌雨量指数・流域雨量指数による融雪災害に関する事例調査
H25	盛岡地方気象台	地域の温暖化情報に対するニーズの調査と予測データの解析
H25	山形地方気象台	融雪効果を導入した土壌雨量指数・流域雨量指数による融雪災害に関する事例調査
H25	福島地方気象台	地域の温暖化情報に対するニーズの調査と予測データの解析
H25	長野地方気象台	地域の温暖化情報に対するニーズの調査と予測データの解析
H25	新潟地方気象台	融雪効果を導入した土壌雨量指数・流域雨量指数による融雪災害に関する事例調査
H25	富山地方気象台	地球温暖化予測の解析
H25	津地方気象台	三重県における津波の特性調査 (2004 年三重県南東沖の地震と昭和東南海地震のシミュレーションから)
H25	高知地方気象台	PC版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査と普及啓発への利活用の検討
H25	高知地方気象台	幼児から小学校低学年向け、仕掛け絵本等を用いた地震・津波防災教育用教材開発の試み
H25	下関地方気象台	PC 版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H25	鹿児島地方気象台	地域の温暖化情報に対するニーズの調査と予測データの解析
H25	鹿児島地方気象台	PC 版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H25	大分地方気象台	地域の温暖化情報に対するニーズの調査と予測データの解析
H25	宮崎地方気象台	PC 版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H25	沖縄気象台管内共同	PC 版津波シミュレーションを利用した津波の地域的な特性調査
H26	室蘭地方気象台	PC 版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H26	山形地方気象台	PC 版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H26	福島地方気象台	地域の温暖化情報に対するニーズの調査と予測データの解析
H26	横浜地方気象台	PC 版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H26	彦根地方気象台	比良おろしをコメントする府県気象情報の発表に向けた調査と試行
H26	下関地方気象台	PC 版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H26	鹿児島地方気象台	地域の温暖化情報に対するニーズの調査と予測データの解析
H26	大分地方気象台	PC 版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H26	熊本地方気象台	PC 版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H26	名瀬測候所	南海トラフや奄美群島太平洋沖の地震・津波に対する防災資料の作成
H26	沖縄気象台管内共同	PC 版津波シミュレーションを利用した津波の地域的な特性調査
H27	稚内地方気象台	警報事例 (暴風・暴風雪) データベース作成
H27	盛岡地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査

# 地方気象台等における業務改善 プロジェクト

## テーマと担当官署の一覧

表 1-3-1 地方気象台等における業務改善 プロジェクト  
年度ごとの担当官署とテーマ一覧 (8/11)

年度	官署	テーマ
H27	秋田地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H27	熊谷地方気象台	自主防災組織リーダー養成講座向け映像研修資料作成
H27	新潟地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H27	富山地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H27	金沢地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H27	津地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H27	下関地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H27	佐賀地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H27	長崎地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H27	熊本地方気象台	PC版津波シミュレーションを利用した津波の特性調査
H27	大分地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H27	宮崎地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H27	鹿児島地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H27	名瀬測候所	南海トラフや奄美群島太平洋沖の地震・津波に対する防災資料の作成
H27	沖縄気象台管内共同	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	室蘭地方気象台	過去の地震災害からみた地震動による地域特性調査
H28	盛岡地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	秋田地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	山形地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	福島地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	新潟地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	富山地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	金沢地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	名古屋地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	津地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	岡山地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	高知地方気象台	高知県における緊急地震速報を見聞きした際の対応行動の検討と普及啓発
H28	下関地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	佐賀地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	長崎地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	熊本地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	大分地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	宮崎地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	鹿児島地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H28	沖縄気象台管内共同	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査

# 地方気象台等における業務改善 プロジェクト

## テーマと担当官署の一覧

表 1-3-1 地方気象台等における業務改善 プロジェクト  
年度ごとの担当官署とテーマ一覧 (9/11)

年度	官署	テーマ
H28	沖縄気象台	簡易水位計を用いた沖縄特有のリーフ地形がもたらす波浪効果による潮位上昇の調査
H29	函館地方気象台	函館独自予報「津軽海峡の風の量的予報」の精度向上
H29	青森地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H29	盛岡地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(3年目)
H29	山形地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(2年目)
H29	福島地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(2年目)
H29	新潟地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(3年目)
H29	福井地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H29	長野地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(2年目)
H29	岐阜地方気象台	一般登山者向け「火山への登山のしおり」作成と配布
H29	名古屋地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(2年目)
H29	和歌山地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H29	岡山地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(2年目)
H29	下関地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(3年目)
H29	佐賀地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(3年目)
H29	長崎地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(3年目)
H29	熊本地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(2年目)
H29	大分地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(3年目)
H29	宮崎地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(3年目)
H29	鹿児島地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(3年目)
H29	沖縄気象台	簡易水位計を用いた沖縄特有のリーフ地形がもたらす波浪効果による潮位上昇の調査
H30	札幌管内共同	地域の強風特性調査及び自治体などへの情報共有
H30	根室、帯広地方気象台	釧路・根室・十勝地方の沿岸防災に係わる基礎調査
H30	青森地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査(2年目)
H30	秋田地方気象台	地方公共団体防災担当者向け気象防災ワークショッププログラムの有効活用
H30	山形地方気象台	地域における地形的災害特性の調査
H30	福島地方気象台	火山防災に係る平常時の地元との連携強化
H30	金沢地方気象台	ホットラインを用いた市町との共同防災訓練とその振り返り
H30	甲府地方気象台	地域防災力アップのための啓発資料の広報に関わる事業推進
H30	名古屋地方気象台	地域に影響を与えた過去の地震・津波災害、地震活動の調査
H30	松江地方気象台	火山防災に係る平常時の地元との連携強化
H30	下関地方気象台	地域防災力向上に向けた自治体への積極的なアプローチ
H30	長崎地方気象台	火山防災に係る平常時の地元との連携強化

# 地方気象台等における業務改善 プロジェクト

## テーマと担当官署の一覧

表 1-3-1 地方気象台等における業務改善 プロジェクト  
年度ごとの担当官署とテーマ一覧 (10/11)

年度	官署	テーマ
H30	熊本地方気象台	小学生(高学年)にもわかる火山活動解説資料の手引き
H30	宮崎、鹿児島地方気象台	火山防災に係る平常時の地元との連携強化
H30	沖縄、宮古島、石垣島地方気象台	簡易水位計を用いた沖縄特有のリーフ地形がもたらす波浪効果による潮位上昇の調査
R1	旭川地方気象台	十勝岳・大雪山：火山広報業務の充実化
R1	秋田地方気象台	市町村の地形や気象の特徴から災害特性の理解を深める
R1	山形地方気象台	山形県で発生した風水害と大雨の特徴等に関する調査
R1	福島地方気象台	火山防災に係る平常時の地元との連携強化
R1	前橋地方気象台	火山防災に係る平常時の地元との連携強化
R1	新潟地方気象台	火山防災に係る平常時の地元との連携強化
R1	長野地方気象台	地球化学的観測に関する御嶽山火山マイスターとの合同研修会
R1	徳島地方気象台	「あなたの町の予報官」スキル向上のための現地調査による地域理解の推進
R1	高知地方気象台	地域防災支援に向けた解説資料の充実（2年計画）
R1	熊本地方気象台	英語版「火山活動解説資料の手引き」（リーフレット）の制作及び印刷
R1	宮崎地方気象台	防災情報を日常的に使い災害時に役立てる地域連携で進める周知活動
R1	鹿児島地方気象台	離島における「あなたの町の予報官」の「担当チーム」による市町村支援
R1	石垣島地方気象台	ICTを活用した島しょ部への防災対策支援
R2	網走地方気象台	” e-ラーニング形式の学習教材” を活用した防災知識啓発の支援
R2	山形地方気象台	山形県で発生した風水害と大雨の特徴等に関する調査
R2	福島地方気象台	火山防災に係る平常時の地元との連携強化
R2	熊谷地方気象台	オンラインによる気象防災ワークショップ実施にむけたマニュアルの試行と作成
R2	高知地方気象台	地域防災支援に向けた解説資料の充実
R2	長崎地方気象台	地元関係機関等と連携した在留・訪日外国人への防災情報の普及啓発

# 地方気象台等における業務改善 プロジェクト テーマと担当官署の一覧

表 1-3-1 地方気象台等における業務改善 プロジェクト  
年度ごとの担当官署とテーマ一覧 (11/11)

年度	官署	テーマ
R3	釧路地方気象台	釧路市防災センターにおける地震・津波防災の普及啓発の充実
R3	稚内地方気象台	住民向けパンフレット「土砂災害軽減のために」の作成
R3	山形地方気象台	山形県で発生した風水害と大雨の特徴等に関する調査（昨年度からの継続）
R3	和歌山地方気象台	教育機関向けの休校判断に資するパンフレットの作成
R3	広島地方気象台	YouTubeを活用した地域防災支援及び顔の見える関係の構築推進
R3	関西航空地方気象台	関西航空地方気象台におけるDX*推進による台内外のコミュニケーション機能の強化
R3	下関地方気象台	初任防災担当者向け防災気象情報の読み方講座
R3	佐賀地方気象台	佐賀県を対象としたリーフレットと動画を活用したキキクルの普及啓発
R3	長崎地方気象台	地元関係機関等と連携した在留・訪日外国人への防災情報の普及啓発
R3	熊本地方気象台	火山用リーフレットの多言語化（中国語(簡体字・繁体字)版）の製作及び印刷
R3	宮崎地方気象台	地域連携で進める防災情報の周知活動



# 写真集（気象大学校）

## 人事院総裁賞関係



図 1-3-1 人事院総裁賞賞状



図 1-3-2 授与式（2列目右端が気象大学校長、1列目左から2人目が人事院総裁）



図 1-3-3 受賞時における職員の記念写真

# 写真集（気象大学校）

人と自然とこの地球、学びを社会のために

# 気象大学校

Meteorological College

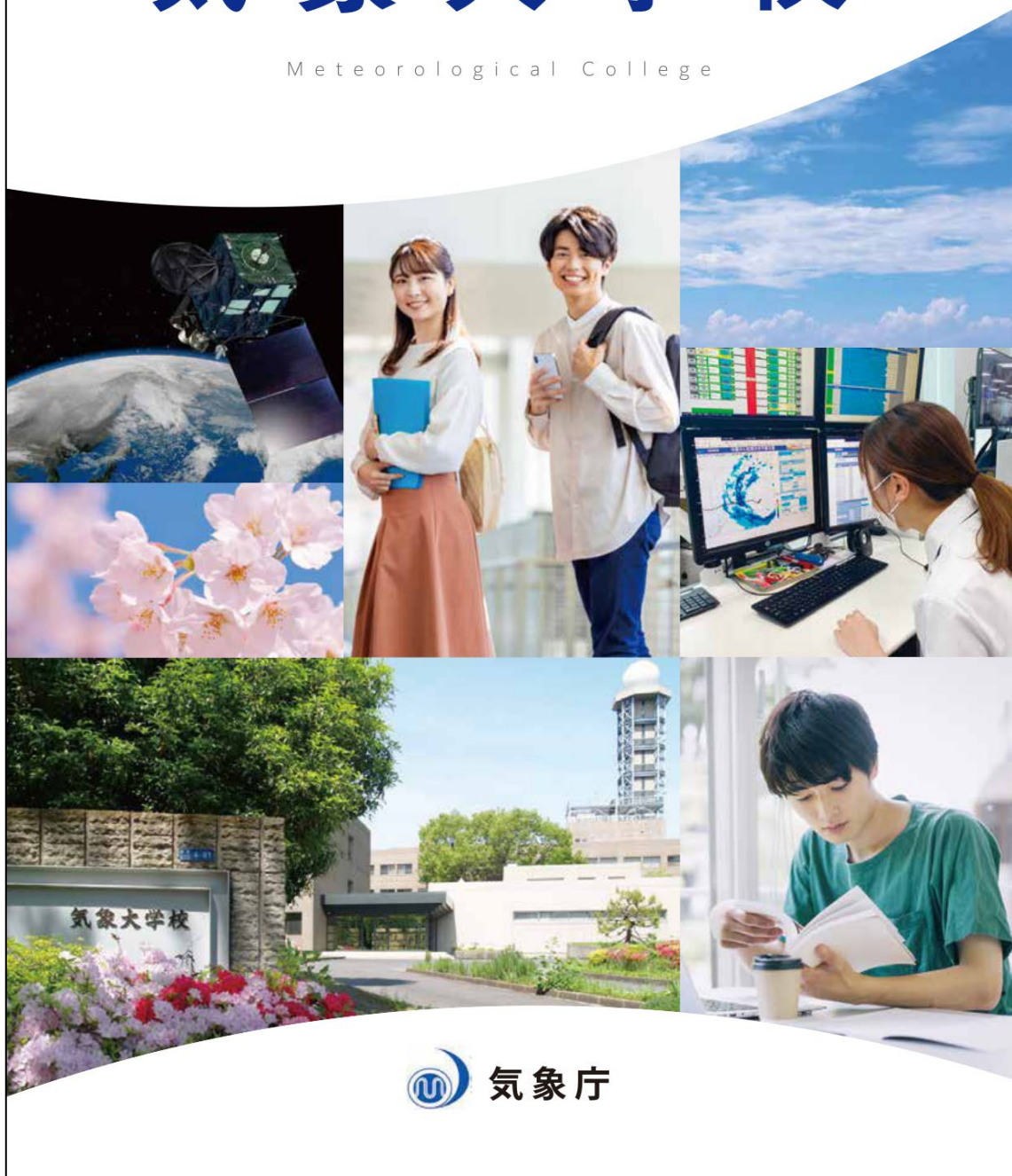


図 1-3-4 気象大学校学校案内パンフレット表紙（2024年2月版）  
全体版や最新版は気象大学校HPで公開している。

# 写真集（気象大学校）



図 1-3-5 歴代の校章



図 1-3-6 校舎

# 気象大学校カリキュラム資料

気象大学校学則別表													
1 教育課程													
学年別区分表													
系列	分野	授業科目	必修又は選択の別	単位	学年別区分								
					1年		2年		3年		4年		備考
					前	後	前	後	前	後	前	後	
教養	人文科学	哲学	選択	2	前期?	後期?					隔年	4単位以上 選択必修	
教養	人文科学	論理学	選択	2	前期?	後期?							
教養	人文科学	心理学	選択	2			前期?	後期?			隔年		
教養	人文科学	科学史	選択	2			前期?	後期?					
教養	人文科学	文学	選択	2			前期?	後期?			隔年		
教養	社会科学	経済学	選択	2			前期?	後期?					
教養	社会科学	法学	選択	2	前期?	後期?					隔年		
教養	社会科学	社会学	選択	2	前期?	後期?							
教養	社会科学	政治学	選択	2			前期?	後期?			隔年		
教養	社会科学	地理学	選択	2			前期?	後期?					
教養	第1外国語	英語A	必修	2	2	2					いずれか 一カ国語 選択必修		
教養	第1外国語	英語B	必修	2	2	2							
教養	第1外国語	英語C	必修	2		2	2						
教養	第1外国語	英語D	必修	2		2	2						
教養	第2外国語	仏語I	選択	2	2	2							
教養	第2外国語	仏語II	選択	2	2	2							
教養	第2外国語	仏語III	選択	2		2	2						
教養	第2外国語	中国語I	選択	2	2	2							
教養	第2外国語	中国語II	選択	2	2	2							
教養	第2外国語	中国語III	選択	2		2	2						
基礎	技術英語	科学技術英語A	必修	1				2					
基礎	技術英語	科学技術英語B	必修	1				2					
基礎	数学	解析学I	必修	4	4								
基礎	数学	解析学II	必修	4		4							
基礎	数学	線形代数学	必修	4	2	2							
基礎	数学	微分方程式論	必修	2		2							
基礎	数学	複素関数論	必修	2		2							
基礎	数学	数学通論	選択	2				2	2				
基礎	数学	物理数学I	必修	4		2	2						
基礎	数学	物理数学II	必修	4			2	2					
基礎	物理学	力学I	必修	4	2	2							
基礎	物理学	力学演習	選択	1		2							
基礎	物理学	力学II	選択	2		2							
基礎	物理学	物理学実験	必修	4		4	4						
基礎	物理学	熱学I	必修	2		2							
基礎	物理学	熱学II	選択	2		2							
基礎	物理学	統計力学	選択	2				2					
基礎	物理学	振動波動論	必修	2		2							
基礎	物理学	電磁気学	必修	4		2	2						
基礎	物理学	電磁気学演習	選択	1				2					
基礎	物理学	量子力学	選択	2				2					
基礎	物理学	流体力学	必修	2		2							
基礎	物理学	地球流体力学	必修	2				2					

図 1-3-7 平成20年度改訂 大学部カリキュラム (気象大学校学則別表) (1/2)

# 気象大学校カリキュラム資料

系列	分野	授業科目	必修又は選択の別	単位	学年別区分								備考		
					1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎	電子工学	電子工学Ⅰ	必修	2			2								
基礎	電子工学	電子工学Ⅱ	選択	2				2							
基礎	電子工学	電子工学実験	必修	1				3							
基礎	情報科学	統計学	必修	2	2										
基礎	情報科学	情報処理演習Ⅰ	必修	1	2										
基礎	情報科学	情報処理演習Ⅱ	選択	1		2									
基礎	情報科学	データ解析演習	選択	1			2								
基礎	情報科学	数値計算演習Ⅰ	選択	1				2							
基礎	情報科学	数値計算演習Ⅱ	選択	1						2					
基礎	化学	化学通論	必修	2	2	2									
基礎	化学	化学実験Ⅰ	必修	1			3								
基礎	化学	物理化学	選択	2				2							
基礎	化学	化学実験Ⅱ	選択	1					3						
専門	環境科学	生物学	選択	1			2								
専門	環境科学	地球化学	選択	2							2			2単位以上	
専門	環境科学	地球環境科学	選択	2								2		選択必修	
専門	海洋	海洋学特論	選択	2								2			
専門	海洋	海洋学	必修	4				2	2						
専門	気象	気象学概論	必修	2	2	2									
専門	気象	気象力学	必修	4				2	2						
専門	気象	大気物理学	必修	4				2	2						
専門	気象	地球物理学実験	必修	4				4	4						
専門	気象	総観気象学	必修	4							2	2			
専門	気象	観測技術論	必修	2								2			
専門	気象	気象学特論A	選択	2								2			
専門	気象	気象学特論B	選択	2								2			
専門	気象	気象学特論C	選択	2								2			
専門	気象	気象学特論D	選択	2									2		
専門	気象	気象学特論E	選択	2									2		
専門	気象	気象学特論F	選択	2									2		
専門	地震火山	固体地球科学	選択	1	2										
専門	地震火山	地球内部物理学概論	必修	1		2									
専門	地震火山	弾性体力学	必修	2			2								
専門	地震火山	地震学	必修	4				2	2						
専門	地震火山	地震学演習	選択	1					2						
専門	地震火山	地震火山学特論A	選択	2								2		2単位以上	
専門	地震火山	地震火山学特論B	選択	2									2	選択必修	
専門	地球惑星	地球電磁気学	選択	2								2			
専門	地球惑星	宇宙物理学	選択	1									2		
専門	セミナー	セミナー	選択	8	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
専門	卒業研究	卒業研究	必修	6								6	6		

注：学年別区分内の数字は週時間数を表す。

2. 特修課程

授業科目	必修選択区分	時間数
実習	必修	300時間以上
長官が必要と認めてその都度命じる授業科目	必修	300時間以上

図 1-3-7 平成20年度改訂 大学部カリキュラム（気象大学校学則別表）（2/2）

# 気象大学校学位



図 1-3-8 学位記（令和5年度）（表紙）

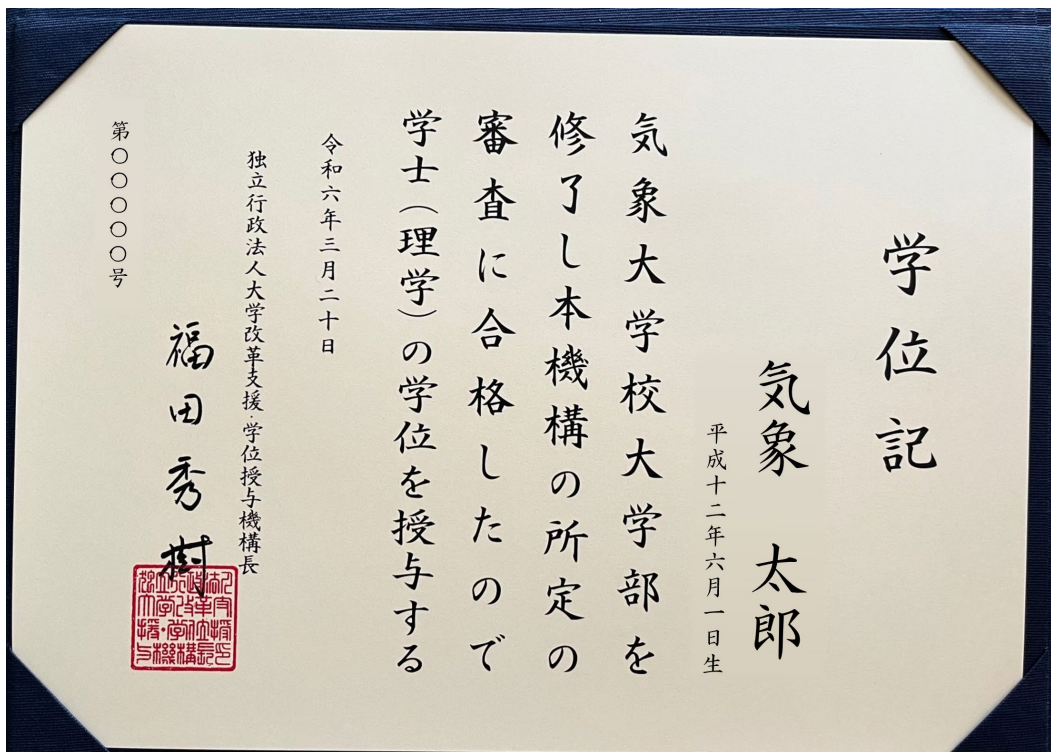


図 1-3-9 学位記（令和5年度）

## 4. 審議会・法律

### 気象業務法関連資料

表 1-4-1 気象庁所管の法令

業務内容	気象業務			(参考) 組織関連
	観測業務関連	予報業務関連	検定業務関連	
	気象、地象、水象の観測項目、観測指針等を定める	予報・注意報・警報の種類、発表区域、発表基準等を定める	気象測器検定の申請手続、合格基準、手数料等を定める	気象庁の課、室、係等の名称、所掌事務を定める
法律 (1)	・気象業務法			(国土交通省設置法)
政令 (1)	・気象業務法施行令			(国土交通省組織令)
省令 (7)	・気象業務法施行規則		・気象測器検定規則 ・気象測器等委託検定規則	・気象庁組織規則
告示 (約30)	・気象庁震度階級表 ・気象庁風力階級表等	・気象庁予報警報規程 ・予報警報標識規則	・気象測器の検定の合格基準	—
訓令 (約60)	・気象官署観測業務規程 ・地域気象観測業務規則	・気象官署予報業務規則 ・航空気象予報業務規則	・気象測器型式証明事務取扱規程 ・気象官署気象測器部内検査規則	・気象庁組織細則 ・火山防災連絡事務所を設置する訓令
通達 (多数)	・地上気象観測業務実施要領 ・地域気象観測業務実施要領	・気象官署予報業務実施要領 ・航空気象予報業務実施要領	・気象測器型式証明及び気象測器等委託検定に係る事務取扱要領	—

# 気象業務法関連資料

表 1-4-2 気象業務法の主な変遷

公布日	内容
昭和27(1952)年 6月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>気象業務法の制定（気象業務に関する基本法として法律上の根拠を明確化）</li> </ul>
昭和30(1955)年 7月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>気象庁が義務として行う予報・警報に、一般の利用及び水防活動の利用に適合する洪水予報・洪水警報を追加。</li> </ul>
昭和31(1956)年 6月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央気象台が運輸省の外局「気象庁」になったことに伴う改正。</li> </ul>
昭和53(1978)年 6月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海地震の警戒宣言発令のための気象庁長官から内閣総理大臣への「地震予知情報」の報告手続を追加。</li> </ul>
平成5(1993)年 5月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>予報業務許可事業者に対し、気象予報士の設置を義務づけ。</li> <li>気象予報士の試験・登録制度を創設。</li> <li>民間における気象業務の健全な発達を図ることを目的とする「民間気象業務支援センター」に関する制度を創設。</li> </ul>
平成11(1999)年 12月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>運輸省が国土交通省になったことに伴う改正。</li> </ul>
平成13(2001)年 6月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>気象測器の検定の実施を「指定検定機関」が代行できる制度を整備。</li> <li>型式証明を受けた気象測器の検定につき、「認定測定者」が行った器差の測定の結果を記載した書類による簡易的な検定手続を整備。</li> <li>都道府県知事が指定した河川について、気象庁と都道府県知事が共同して行う水防活動の利用に適合する予報・警報の制度を創設。</li> </ul>
平成15(2003)年 6月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>公益法人改革として、気象測器の検定事務について気象庁長官の登録を受けた「登録検定機関」が行う制度を創設。</li> </ul>
平成19(2007)年 11月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>気象庁が義務として行う予報・警報に、地震動及び火山現象を追加。</li> </ul>
平成23(2011)年 12月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>気象庁が単独で行う水防活動の利用に適合する予報・警報の対象に津波を追加。</li> </ul>
平成25(2013)年 5月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大な災害の起こるおそれが著しく大きい場合に特別警報を行う制度を創設。</li> </ul>
令和5(2023)年 5月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>官民それぞれの予報の高度化・充実を図るための制度を整備。</li> </ul>



# 交通政策審議会気象分科会

## 分科会開催履歴

表 1-4-3 交通政策審議会気象分科会 開催履歴

第1回気象分科会	平成15年6月27日
第2回気象分科会	平成15年12月18日
第3回気象分科会	平成16年3月15日
第4回気象分科会	平成16年5月31日
第5回気象分科会	平成16年12月21日
第6回気象分科会	平成17年2月14日
第7回気象分科会	平成18年3月20日
第8回気象分科会	平成20年1月16日
第9回気象分科会	平成20年3月10日
第10回気象分科会	平成20年6月5日
第11回気象分科会	平成21年1月8日
第12回気象分科会	平成21年2月12日
第13回気象分科会	平成21年3月4日
第14回気象分科会	平成21年5月1日
第15回気象分科会	平成21年6月16日
第16回気象分科会	平成23年1月27日
第17回気象分科会	平成23年9月29日
第18回気象分科会	平成23年12月22日
第19回気象分科会	平成24年2月10日
第20回気象分科会	平成27年3月17日
第21回気象分科会	平成27年4月27日
第22回気象分科会	平成27年7月8日
第23回気象分科会	平成27年7月29日
第24回気象分科会	平成30年1月10日
第25回気象分科会	平成30年2月22日
第26回気象分科会	平成30年4月24日
第27回気象分科会	平成30年7月2日
第28回気象分科会	平成30年8月1日
第29回気象分科会	令和2年1月10日
第30回気象分科会	令和2年4月（書面開催）
第31回気象分科会	令和2年6月5日
第32回気象分科会	令和2年10月21日
第33回気象分科会	令和2年12月18日
第34回気象分科会	令和4年2月22日
第35回気象分科会	令和4年5月16日
第36回気象分科会	令和4年7月11日
第37回気象分科会	令和5年3月（書面開催）
第38回気象分科会	令和6年3月28日
第39回気象分科会	令和7年3月17日

# 交通政策審議会気象分科会

## 委員一覧

表 1-4-4 交通政策審議会気象分科会委員一覧 (1/2)

井口 雅一	東京大学名誉教授	第1回～第7回：分科会長
島崎 邦彦	東京大学地震研究所教授	第1回～第7回：分科会長代理、 第8回～第19回：分科会長
新野 宏	東京大学海洋研究所教授	第2回～第7回、 第11回～第15回：臨時委員、 第24回～第37回：分科会長
中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター 教授	第34回～第37回：臨時委員、 第38回～第39回：分科会長
平林 博	(財)日本国際フォーラム参与	第8回～第19回：分科会長代理
屋井 鉄雄	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授	第20回～第37回：分科会長代理
羽藤 英二	東京大学大学院工学系研究科社会基盤学 専攻 教授	第38回～第39回：分科会長代理
佐和 隆光	京都大学経済研究所所長	第1回～第19回：委員
宮本 一子	(社)日本消費生活アドバイザー・コン サルタント 協会消費生活研究所長	第1回～第7回：委員
廻 洋子	淑徳大学講師	第1回～第19回：委員
森地 茂	東京大学教授	第1回～第15回：委員
大島 まり	東京大学大学院情報学環教授	第8回～第19回：委員
家田 仁	東京大学大学院工学系研究科教授	第16回～第29回：委員
伊達 美和子	森トラスト・ホテルズ&リゾーツ (株) 代表取締役社長	第20回～第23回：委員
矢ヶ崎 紀子	東洋大学国際地域学部国際観光学科准教授	第20回～第37回：委員
小林 篤子	読売新聞東京本社 論説委員	第29回～第33回：委員
小林 潔司	京都大学経営管理大学院 特任教授	第30回～第38回：委員
村井 正美	読売新聞東京本社 論説委員	第34回～第37回：委員
鎌田 裕美	一橋大学大学院経営管理研究科 准教授	第38回～第39回：委員
松本 真由美	東京大学教養学部 客員准教授	第38回：委員
齊藤 由里恵	中京大学経済学部 准教授	第39回：委員
多々納 裕一	京都大学防災研究所 教授	第39回：委員
石井 和子	気象予報士会会長	第2回～第7回：臨時委員
木本 昌秀	東京大学気候システム研究センター教授	第2回～第10回、 第16回～第19回：臨時委員
重川 希志依	富士常葉大学環境防災学部教授	第2回～第7回：臨時委員
松本 正樹	(社)日本民間放送連盟報道委員会委員	第2回～第4回：臨時委員
山崎 登	日本放送協会解説委員	第2回～第7回、 第20回～第23回：臨時委員
小櫃 眞佐己	(社)日本民間放送連盟報道委員会委員	第5回～第7回：臨時委員

※所属は全て最初の最初の任命時のもの

# 交通政策審議会気象分科会

## 委員一覧

表 1-4-4 交通政策審議会気象分科会委員一覧 (2/2)

岩谷 忠幸	特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク事務局長	第8回～第10回：臨時委員
松山 優治	東京海洋大学海洋科学部教授	第8回～第10回：臨時委員
清原 慶子	三鷹市長	第11回～第15回：臨時委員
鈴木 敏恵	千葉大学教育学部特命教授・一級建築士	第11回～第15回：臨時委員
中村 功	東洋大学社会学部教授	第11回～第15回：臨時委員
正木 清貴	日本放送協会報道局災害・気象センター長	第11回～第15回：臨時委員
飯尾 泰義	東京電力株式会社技術部長	第16回：臨時委員
刈屋 武昭	明治大学グローバル・ビジネス研究科教授	第16回～第19回：臨時委員
小林 和彦	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第16回～第19回：臨時委員
新立 利也	株式会社イトーヨーカ堂商品本部企画・情報担当総括マネジャー	第16回～第19回：臨時委員
藤森 涼子	NPO法人気象キャスターネットワーク代表	第16回～第23回：臨時委員
三村 信男	茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター教授	第16回～第19回：臨時委員
高藪 縁	東京大学大気海洋研究所教授	第20回～第28回：臨時委員
田中 淳	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長	第20回～第23回：臨時委員
越塚 登	東京大学大学院情報学環 教授	第24回～第28回、 第30回～第37回：臨時委員
杉山 将	理化学研究所 革新知能統合研究センター長/東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授	第24回～第28回：臨時委員
松本 浩司	日本放送協会 解説主幹	第24回～第28回：臨時委員
山本 佳世子	(株)日刊工業新聞社 論説委員	第24回～第28回：臨時委員
今石 尚	日本建設業連合会 土木工事技術委員会 土木情報技術部会部会長	第30回～第33回：臨時委員
沖 理子	宇宙航空研究開発機構第一宇宙技術部門 地球観測研究センター研究領域上席	第30回～第33回：臨時委員
草開 千仁	株式会社ウェザーニューズ代表取締役社長	第30回～第33回：臨時委員
古賀 真紀	ヤフー株式会社 メディアカンパニー メディア統括本部 メディアユニットプロデューサー	第30回～第33回：臨時委員
小室 広佐子	東京国際大学副学長 兼 言語コミュニケーション学部長、教授	第34回～第37回：臨時委員
林 泰一	京都大学東南アジア地域研究研究所 連携教授	第34回～第37回：臨時委員
若林 悠	大東文化大学法学部 講師	第34回～第37回：臨時委員

※所属は全て最初の最初の任命時のもの

## 5. 気象業務の評価と改善

### 気象業務の評価に関する懇談会

#### 懇談会開催履歴

表 1-5-1 気象業務の評価に関する懇談会 開催履歴

第1回（平成13年8月3日）
第2回（平成13年10月3日）
第3回（平成14年3月22日）
第4回（平成14年9月20日）
第5回（平成15年3月18日）
第6回（平成15年5月29日）
第7回（平成15年10月22日）
第8回（平成16年3月19日）
第9回（平成16年10月20日）
第10回（平成17年3月2日）
第11回（平成18年3月2日）
第12回（平成19年3月2日）
第13回（平成20年3月6日）
第14回（平成21年3月4日）
第15回（平成22年3月17日）
第16回（平成23年5月31日）
第17回（平成24年3月22日）
第18回（平成25年3月7日）
第19回（平成26年3月3日）
第20回（平成27年3月3日）
第21回（平成28年3月1日）
第22回（平成29年3月1日）
第23回（平成30年3月7日）
第24回（平成31年3月13日）
第25回（令和2年3月4日～11日）（書面開催）
第26回（令和3年3月4日）
第27回（令和4年3月8日）
第28回（令和5年3月7日）
第29回（令和6年3月5日）
第30回（令和7年3月6日）

# 気象業務の評価に関する懇談会

## 委員一覧

表 1-5-2 気象業務の評価に関する懇談会 委員一覧

廣井 脩	東京大学大学院情報学環・学際情報学府 教授	第1回～第11回：座長
石田 東生	筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授	第1回～第11回：委員 第12回～第13回：座長
田中 淳	東京大学 名誉教授 東京大学大学院情報学環 特任教授	第12回～第13回：委員 第14回～：座長
小室 広佐子	東京国際大学 副学長 言語コミュニケーション学部 学部長	第1回～：委員
田淵 雪子	行政経営コンサルタント	第1回～：委員
小林 昂	株式会社BS日本 代表取締役社長	第1回～第12回：委員
平 啓介	琉球大学 監事	第1回～第12回：委員
森下 俊三	東日本電信電話株式会社 代表取締役副社長	第1回～第8回：委員
大木 一夫	東日本電信電話株式会社 常務取締役	第9回～第10回：委員
矢野 厚	東日本電信電話株式会社 常務取締役	第11回：委員
吉村 辰久	東日本電信電話株式会社 取締役	第12回～第14回：委員
木本 昌秀	東京大学大気海洋研究所 副所長・教授	第13回～第18回：委員
中川 和之	株式会社時事通信社 客員解説委員	第13回～：委員
片田 敏孝	東京大学大学院情報学環 特任教授	第14回～：委員
山村 雅之	東日本電信電話株式会社 常務取締役	第15回、第17回：委員
高橋 正行	東日本電信電話株式会社 取締役	第18回～第20回：委員
早坂 忠裕	東北大学大学院理学研究科 教授	第19回～：委員
田辺 博	東日本電信電話株式会社 取締役 ネットワーク事業推進本部サービス運営部長	第21回～第23回：委員
星野 理彰	東日本電信電話株式会社 取締役 ネットワーク事業推進本部サービス運営部長	第24回：委員
池田 敬	東日本電信電話株式会社 ネットワーク事業推進本部 執行役員副本部長 サービス運営部長	第25回～第27回：委員
島 雄策	東日本電信電話株式会社 取締役執行役員 ネットワーク事業推進本部 本部長 ネットワーク事業推進本部 設備企画部長兼務	第28回～：委員

※途中退任された委員の所属は退任時、その他委員は令和7年3月時点

## 6. 広報業務

### 写真集（気象展示室）



図 1-6-1 気象展示室（大手町庁舎1階）

# 写真集（気象科学館）

開館当時：平成9年～15年撮影



図 1-6-2 気象科学館入口



図 1-6-3 気象観測機器

# 写真集（気象科学館）

開館当時：平成9年～15年撮影

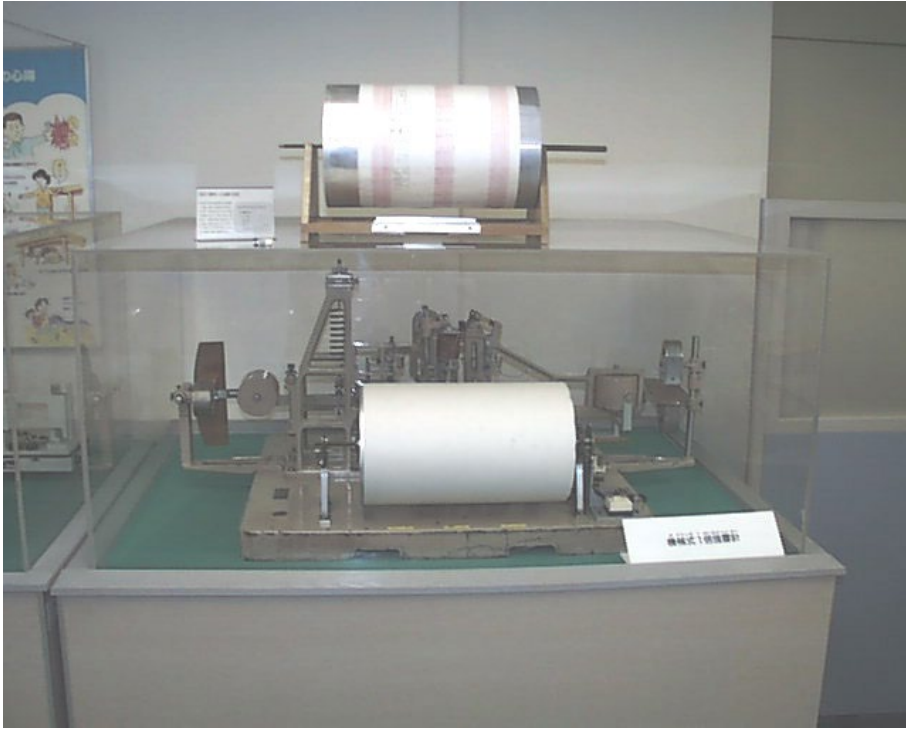


図 1-6-4 機械式1倍強震計



図 1-6-5 計測震度計



# 写真集（気象科学館）

開館当時：平成9年～15年撮影



図 1-6-6 竜巻発生装置「たつのすけ」



図 1-6-7 雨粒発生装置「ポタリくん」

# 写真集（気象科学館）

リニューアル1回目：平成16年撮影



図 1-6-8 気象科学館入口



図 1-6-9 庁舎の変遷等

# 写真集（気象科学館）

リニューアル1回目：平成16年撮影



図 1-6-10 気象・海洋観測



図 1-6-11 気象観測

# 写真集（気象科学館）

リニューアル1回目：平成16年撮影



図 1-6-12 天気予報・数値予報



図 1-6-13 地震・火山監視

# 写真集（気象科学館）

リニューアル2回目：平成22年撮影



図 1-6-14 「はれるん」人形（平成17年～）



図 1-6-15 災害ポイントウォッチャー（奥）

# 写真集（気象科学館）

リニューアル2回目：平成22年撮影



図 1-6-16 緊急地震速報トライアル



図 1-6-17 知っている？天気予報が届くまで

# 写真集（気象科学館）

リニューアル2回目：平成22年撮影



図 1-6-18 ひよっとして大雨キューブ



図 1-6-19 津波シミュレーター（平成23年6月～）

# 写真集（気象科学館）

令和6年1月撮影



図 1-6-20 気象科学館2F入口



図 1-6-21 気象庁と港区との連携協力に関する協定締結式  
(令和2年1月15日：港区役所)



# 写真集（気象科学館）

令和6年1月撮影

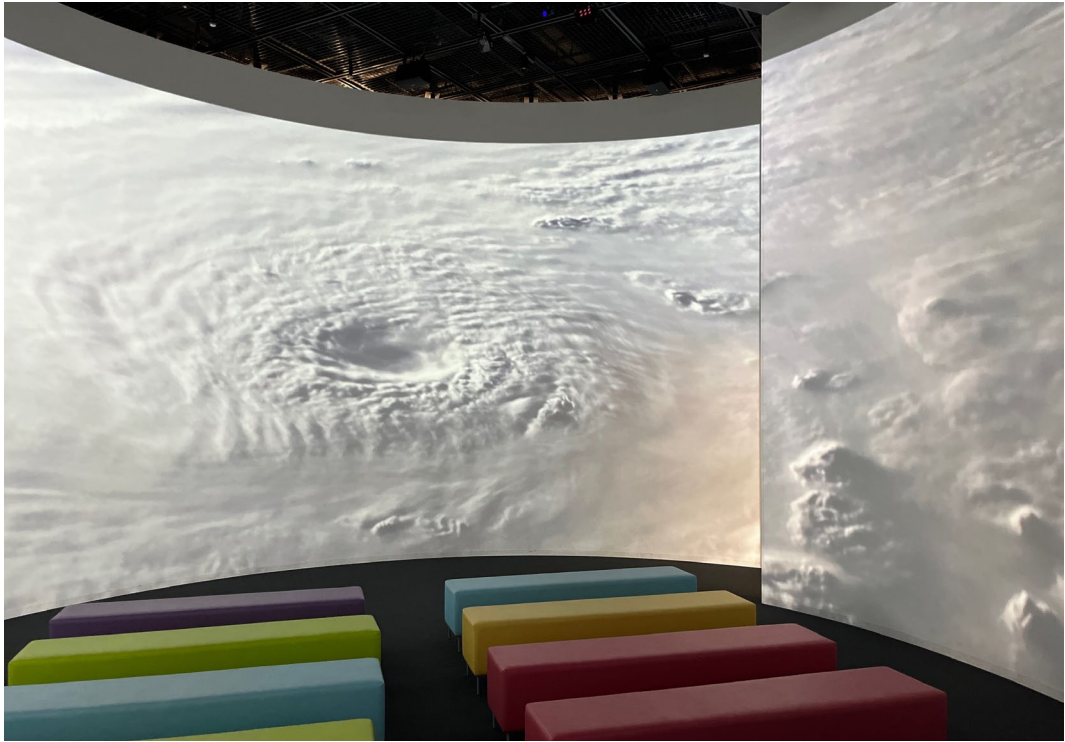


図 1-6-22 うずまきシアター



図 1-6-23 津波シミュレーター

# 写真集（気象科学館）

令和6年1月撮影



図 1-6-24 「うずのすけ」、「大雨ヒヤリハット」



図 1-6-25 各種展示物

# 防災フェア

表 1-6-1 「防災フェア」の展示内容（昭和57～58年）

**【昭和57年(1982年)の展示内容】 昭和57年8月26日～8月31日：新宿伊勢丹**

- ・ 防災相談コーナーへの職員派遣
- ・ 天気相談所は会場からの照会に応じて天気実況を提供
- ・ 海底地震計の展示

**【昭和58年(1983年)の展示内容】 昭和58年8月25日～8月30日：日本橋高島屋**

- ・ 地震計測機器の出品
- ・ パネル作成のための気象資料の提供
- ・ 地震課、地震予知情報課から防災相談員として連日職員を派遣



図 1-6-26 「防災フェア'83」（昭和58年8月：日本橋高島屋）

# 防災フェア

表 1-6-2 「防災フェア」の展示内容（昭和59～60年）

**【昭和59年(1984年)の展示内容】 昭和59年8月24日～29日：池袋西武**

- ・地震関連機器の出品
- ・気象衛星「ひまわり」による映像資料
- ・地震津波監視課、地震予知情報課から防災相談員として連日職員を派遣

**【昭和60年(1985年)の展示内容】 昭和60年8月27日～9月1日：日本橋三越**

- ・富士山レーダーのパソコンによる画像表示（気象庁）
- ・アメダスデータ宅内装置による各種データのプリントアウト（NTT協力）
- ・各種気象情報のリアルタイム表示及び大雨時の事例表示（日本気象協会協力）
- ・ビデオによる気象庁の大雨監視及び予報システムの紹介（NHK、日本テレビ協力）
- ・簡易受信端末装置による静止気象衛星「ひまわり」の雲画像の表示（NEC協力）
- ・パソコンによる過去の震源表示（気象庁）
- ・海底地震計、加速度計等の展示（メーカー協力）



図 1-6-27 「防災フェア '85」（昭和60年9月：日本橋三越）

# 防災フェア

表 1-6-3 「防災フェア」の展示内容（昭和61～63年）

## 【昭和61年(1986年)の展示内容】 8月22日～8月27日：渋谷東急東横店

- ・ 降水短時間予報のパソコン表示（気象庁）
- ・ 富士山レーダー画像のパソコン表示（気象庁）
- ・ 簡易受信装置による「ひまわり」画像表示（メーカー協力）
- ・ 過去の地震の震源, 火山活動に関するデータ等のパソコン表示（気象庁）
- ・ 地震計（加速度計）の展示（メーカー協力）
- ・ 気象協会MICOSによる各種表示

## 【昭和62年(1987年)の展示内容】 昭和62年8月21日～8月26日：新宿小田急

- ・ 降水短時間予報、数値予報等のオンライン表示
- ・ 富士山レーダーエコーのオンライン表示
- ・ Fネットによる図形表示の気象情報サービス
- ・ 静止気象衛星「ひまわり」の画像表示
- ・ ビデオによる降水短時間予報の紹介
- ・ 地震活動等総合監視システムの紹介
- ・ 伊豆大島三原山の火山用地震計の波形オンライン表示
- ・ 地震計（加速度計）の紹介
- ・ パソコンによる地震クイズ” ナゾナゾに挑戦”

## 【昭和63年(1988年)の展示内容】 昭和63年8月25日～8月30日：上野松坂屋

- ・ 降水短時間予報のオンライン表示
- ・ 数値予報等のデモンストレーション
- ・ 気象無線受信装置を利用した気象FAX情報の紹介
- ・ 富士山レーダーのエコーのオンライン表示
- ・ 気象衛星NOAAの画像表示
- ・ 降水短時間予報等のビデオ
- ・ 文字放送による気象情報の紹介
- ・ 過去の震源を深さ別にプロットした模型の展示
- ・ 伊豆大島の火山用地震計のオンライン表示
- ・ 地震計を使っての波形のパソコン表示
- ・ 地震クイズ” ナゾナゾに挑戦”
- ・ 日本気象協会によるMICOS等で気象情報提供の紹介

# 防災フェア

表 1-6-4 「防災フェア」の展示内容（平成元～2年）

## 【平成元年(1989年)の展示内容】平成元年8月24日～8月29日：池袋東武

- ・ 現用の東京L-ADESS端末での気象情報のオンライン表示
- ・ 数値予報等のデモンストレーション
- ・ 富士山レーダーエコーのオンライン表示
- ・ オゾンデータのパソコンによる動画表示
- ・ 気象衛星「ひまわり」の模型の紹介
- ・ EPOSからの地震活動図等のオンライン表示
- ・ 火山の立体ビデオ
- ・ 地震計を使つての波形のパソコン表示
- ・ 地震クイズ“ナゾナゾに挑戦”
- ・ 南関東地域の過去の震源を深さ別にプロットした模型展示
- ・ 日本気象協会によるMICOS等で気象情報提供の紹介
- ・ 屋上のテントで気象観測測器の展示およびお天気相談コーナ
- ・ 清水香織氏（お天気フェアイメージガール）ミニステージ

## 【平成2年(1990年)の展示内容】平成2年8月23日～8月28日：日本橋高島屋

- ・ 新東京L-ADESS端末装置による洪水予報等各種気象関連情報の紹介
- ・ 同装置による台風の3次元表示のデモンストレーション
- ・ 富士山レーダーエコーのオンライン表示
- ・ オゾンデータのパソコンによる動画表示および観測機器
- ・ アメダス統計のパソコン表示
- ・ 静止気象衛星「ひまわり」のリアルタイム表示
- ・ 簡易地震計による波形のパソコン表示
- ・ 火山の立体ビデオ
- ・ 地震クイズ「ナゾナゾに挑戦」
- ・ 全国／南関東地域の過去の震源を深さ別にプロットした模型
- ・ 日本気象協会によるMICOS等で気象情報提供の紹介
- ・ 「お天気BOX」相談コーナー

## 子供のためのお天気教室・お天気フェア

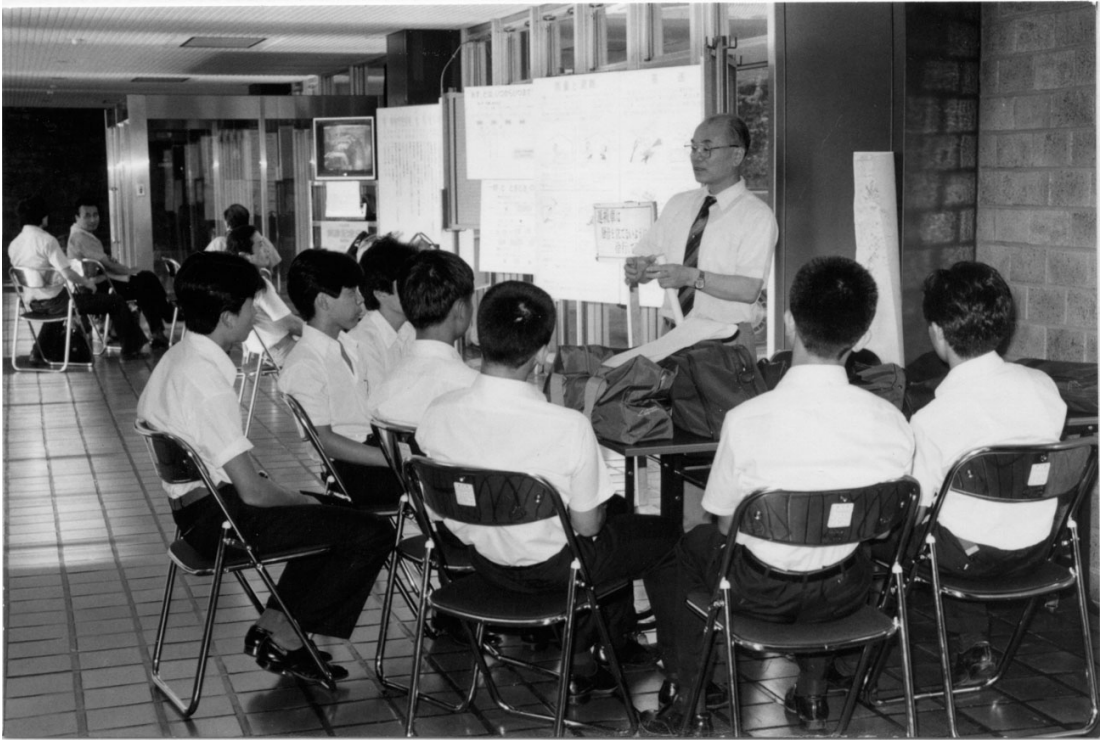


図 1-6-28 子供のためのお天気教室（昭和60年8月：気象庁1階）



図 1-6-29 お天気フェア'95 TOKYO（平成7年8月：新宿NSビル）

## 子供のためのお天気教室・お天気フェア



図 1-6-30 お天気フェア' 96 TOKYO (平成8年7月：新宿NSビル)



図 1-6-31 お天気フェア' 97 TOKYO (平成9年7月：池袋サンシャインシティ)



# 子供のためのお天気教室・お天気フェア

表 1-6-5 子供のためのお天気教室・お天気フェア開催状況

開催年	気象庁（東京）		管区・沖縄气象台	
	開催場所	備考	開催場所	備考
昭和60年	気象庁1階ロビー	「子供のためのお天気教室」	---	---
昭和61年	気象庁1階ロビー	「子供のためのお天気教室」	---	---
昭和62年	気象庁1階ロビー	「子供のためのお天気教室」	福岡市 少年科学文化会館	「子供のためのお天気教室」
昭和63年	気象庁1階ロビー	「子供のためのお天気教室」	仙台市 仙台市科学館	「子供のためのお天気教室」
平成元年	船の科学館	「お天気フェア」	札幌市 教育文化会館	「子供のためのお天気教室」
平成2年	船の科学館	「お天気フェア」	大阪市 こども文化センター	「お天気フェア」
平成3年	新宿NSビル	「お天気フェア」	那覇市 リウボウ	「お天気フェア」
平成4年	渋谷東急本店	「お天気フェア」	福岡市 天神地下街	「お天気フェア」
平成5年	日本橋三越	「お天気フェア」	仙台市 イトーヨーカドー 仙台泉店	「お天気フェア」
平成6年	新宿NSビル	「お天気フェア」	札幌市 イトーヨーカドー エスパ琴似店	「お天気フェア」
平成7年	新宿NSビル	「お天気フェア」	大阪市 大阪国際交流センター	「お天気フェア」
平成8年	新宿NSビル	「お天気フェア」	沖縄市 とまりん (泊埦頭ターミナル)	「お天気フェア」
平成9年	池袋サンシャイン	「お天気フェア」 (日本気象協会主催)	福岡市 天神地下街	「お天気フェア」 (日本気象協会主催)
平成10年	池袋サンシャイン	「お天気フェア」 (日本気象協会主催)	仙台市 長町ザ・モール	「お天気フェア」 (日本気象協会主催)
平成11年	池袋サンシャイン	「お天気フェア」 (日本気象協会主催)	札幌市 ラルズ札幌店	「お天気フェア」 (日本気象協会主催)
平成12年	池袋サンシャイン	「お天気フェア」 (日本気象協会主催)	大阪市 阪急梅田三番街	「お天気フェア」 (日本気象協会主催)
平成13年	池袋サンシャイン	「お天気フェア」 (日本気象協会主催)	那覇市 パレットくもじ	「お天気フェア」 (日本気象協会主催)

## 夏休みこども見学デー



図 1-6-32 予報現業室見学（平成14年8月：大手町庁舎）



図 1-6-33 講堂での初開催（平成17年8月：大手町庁舎）

## 夏休みこども見学デー



図 1-6-34 お天気 ○×クイズ (平成21年8月：大手町庁舎)



図 1-6-35 地震火山現業室見学 (平成25年8月：大手町庁舎)

## 夏休みこども見学デー



図 1-6-36 火山噴火実験（平成30年8月：大手町庁舎）

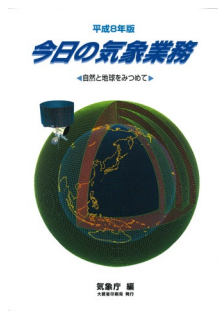


図1-6-37 虎ノ門庁舎での初の実地開催（令和5年8月：講堂）

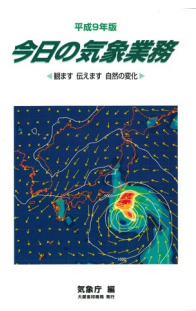
# 刊行物



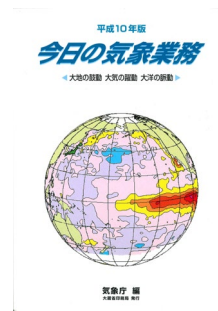
平成7年版  
今日の気象業務



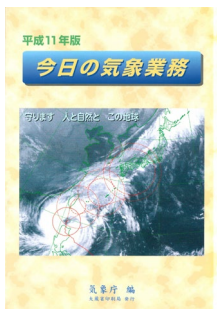
平成8年版  
今日の気象業務



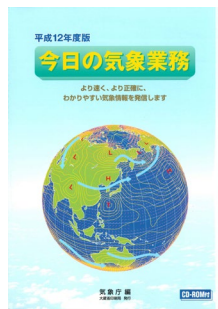
平成9年版  
今日の気象業務



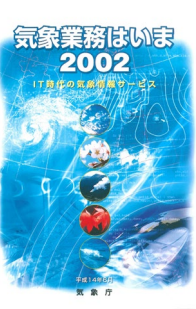
平成10年版  
今日の気象業務



平成11年版  
今日の気象業務



平成12年版  
今日の気象業務



気象業務はいま  
2002



気象業務はいま  
2003



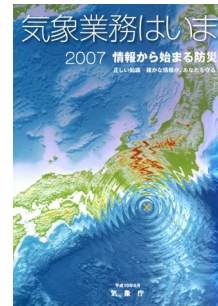
気象業務はいま  
2004



気象業務はいま  
2005



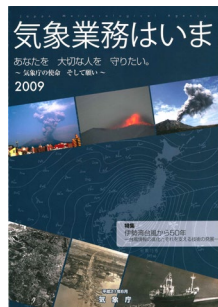
気象業務はいま  
2006



気象業務はいま  
2007



気象業務はいま  
2008



気象業務はいま  
2009



気象業務はいま  
2010



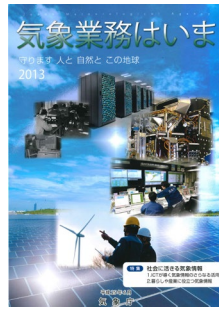
気象業務はいま  
2011

図1-6-38 「今日の気象業務」「気象業務はいま」表紙(1/2)

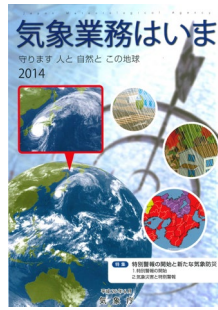
# 刊行物



気象業務はいま  
2012



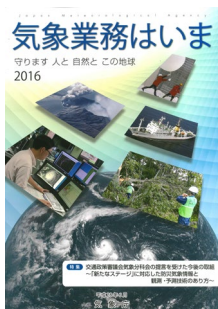
気象業務はいま  
2013



気象業務はいま  
2014



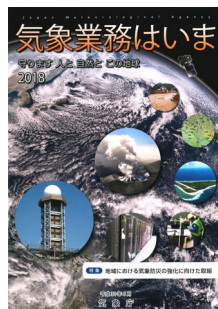
気象業務はいま  
2015



気象業務はいま  
2016



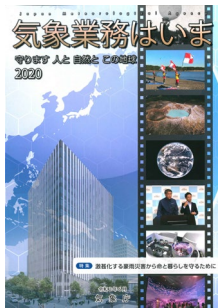
気象業務はいま  
2017



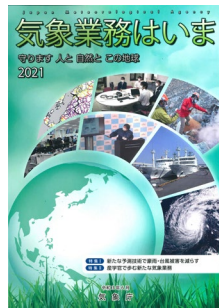
気象業務はいま  
2018



気象業務はいま  
2019



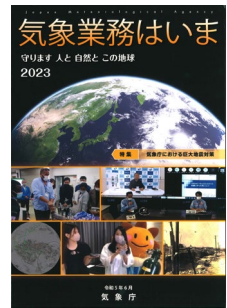
気象業務はいま  
2020



気象業務はいま  
2021



気象業務はいま  
2022



気象業務はいま  
2023



気象業務はいま  
2024

図1-6-38 「今日の気象業務」 「気象業務はいま」表紙(2/2)

## 7. 報道業務

表 1-7-1 気象庁記者クラブ加盟社の変遷 (1/2)

<p>●昭和30年(1955年)7月発足時 (7社、人数不明)</p> <p>全国紙：朝日新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞 地方紙：東京新聞 通信社：共同通信</p>
<p>●昭和47年(1972年)2月 (22社、63人)</p> <p>全国紙：朝日新聞、朝日イブニングニュース、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞 地方紙：北海道新聞、東京新聞、東京タイムズ、西日本新聞 通信社：共同通信、時事通信 テレビ：NETテレビ、NHK、TBS、日本テレビ、フジテレビ、東京12チャンネル ラジオ：日本短波放送、ニッポン放送、文化放送、ラジオ関東</p>
<p>●昭和58年(1983年)7月 (27社、90人)</p> <p>全国紙：朝日新聞、朝日イブニングニュース、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞 地方紙：北海道新聞、東京新聞、東京タイムズ 専門紙：日本農業新聞 通信社：共同通信、時事通信 テレビ：NHK、TBS、テレビ朝日、日本テレビ、フジテレビ、テレビ東京、テレビ静岡、静岡第一テレビ、静岡県民放送、静岡放送、中京テレビ ラジオ：日本短波放送、ニッポン放送、文化放送、ラジオ日本</p>
<p>●平成5年(1993年)6月 (27社、122人)</p> <p>全国紙：朝日新聞、朝日イブニングニュース、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞 地方紙：北海道新聞、東京新聞、静岡新聞 専門紙：日本農業新聞 通信社：共同通信、時事通信 テレビ：NHK、TBS、テレビ朝日、日本テレビ、フジテレビ、テレビ東京、テレビ静岡、静岡第一テレビ、静岡県民放送、静岡放送、中京テレビ ラジオ：日本短波放送、ニッポン放送、文化放送、ラジオ日本</p>

表 1-7-1 気象庁記者クラブ加盟社の変遷 (2/2)

●平成15年(2003年)7月 (39社、139人)

全国紙：朝日新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞  
地方紙：北海道新聞、岩手日報、東京新聞、神奈川新聞、山梨日日新聞、  
信濃毎日新聞、静岡新聞、熊本日日新聞  
専門紙：日本農業新聞  
通信社：共同通信、時事通信、ブルームバーグ・ニュース  
テレビ：NHK、TBS、テレビ朝日、日本テレビ、フジテレビ、テレビ東京、  
東京MXテレビ、岩手放送、テレビ岩手、テレビ静岡、静岡第一テレビ、  
静岡朝日テレビ、静岡放送、中京テレビ、中部日本放送、東海テレビ、  
名古屋テレビ、毎日放送  
ラジオ：日本短波放送、ニッポン放送、文化放送、ラジオ日本

●平成25年(2013年)4月 (42社、116人)

全国紙：朝日新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞  
地方紙：北海道新聞、岩手日報、河北新報、東京新聞、神奈川新聞、山梨日日新聞、  
信濃毎日新聞、新潟日報、静岡新聞、神戸新聞、高知新聞、西日本新聞、  
熊本日日新聞  
専門紙：日本農業新聞  
通信社：共同通信、時事通信  
テレビ：NHK、TBS、テレビ朝日、日本テレビ、フジテレビ、テレビ東京、  
東京MXテレビ、北海道放送、テレビ岩手、テレビ静岡、静岡第一テレビ、  
静岡朝日テレビ、静岡放送、中京テレビ、中部日本放送、東海テレビ、  
名古屋テレビ、毎日放送  
ラジオ：ニッポン放送、文化放送、ラジオ日本

●令和6年(2024年)2月 (48社、181人)

全国紙：朝日新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞  
地方紙：北海道新聞、岩手日報、河北新報、下野新聞、上毛新聞、東京新聞、  
神奈川新聞、山梨日日新聞、信濃毎日新聞、新潟日報、静岡新聞、  
京都新聞、神戸新聞、愛媛新聞、高知新聞、西日本新聞、中国新聞、  
熊本日日新聞、南日本新聞  
専門紙：日本農業新聞、日刊工業新聞  
通信社：共同通信、時事通信  
テレビ：NHK、TBS、テレビ朝日、日本テレビ、フジテレビ、テレビ東京、TOKYO MX、  
テレビ岩手、テレビ静岡、静岡第一テレビ、静岡朝日テレビ、静岡放送、  
中京テレビ、CBCテレビ、東海テレビ、名古屋テレビ、毎日放送  
ラジオ：ニッポン放送、文化放送、ラジオ日本



## 写真集（定例会見）



図 1-7-1 増澤譲太郎長官就任会見（昭和55年4月1日：記者会見室）



図 1-7-2 東海地域判定会発足にあたり抱負をのべる萩原会長とその活躍取材する報道陣（昭和52年4月18日）

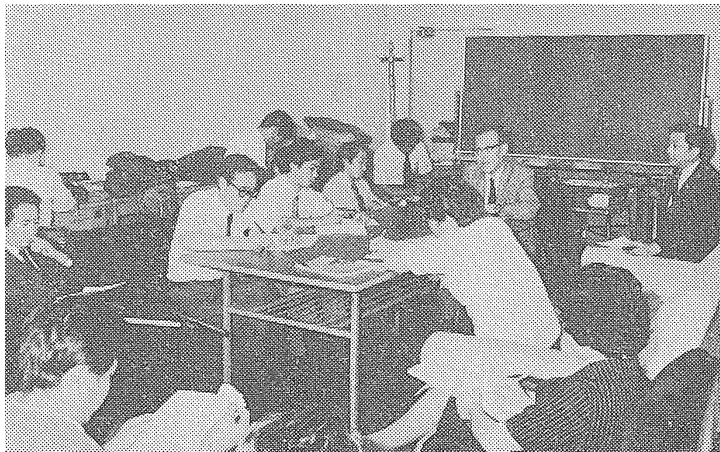


図 1-7-3 記者会見で噴火予知連絡会発足の抱負を語る永田会長（昭和49年7月18日：記者会見室）

# 写真集（緊急会見）

## 台風中継



図 1-7-4 テレビの台風中継車（昭和40年：気象庁正面玄関前）



図 1-7-5 テレビの台風中継車（昭和52年：気象庁正面玄関前）

# 写真集（緊急会見）

## 台風中継



図 1-7-6 台風第20号のNHKテレビ中継（昭和54年10月19日：気象庁講堂）



図 1-7-7 台風第19号のNHKテレビ中継（平成2年9月18日：気象庁講堂）

# 写真集（当時の会見場）

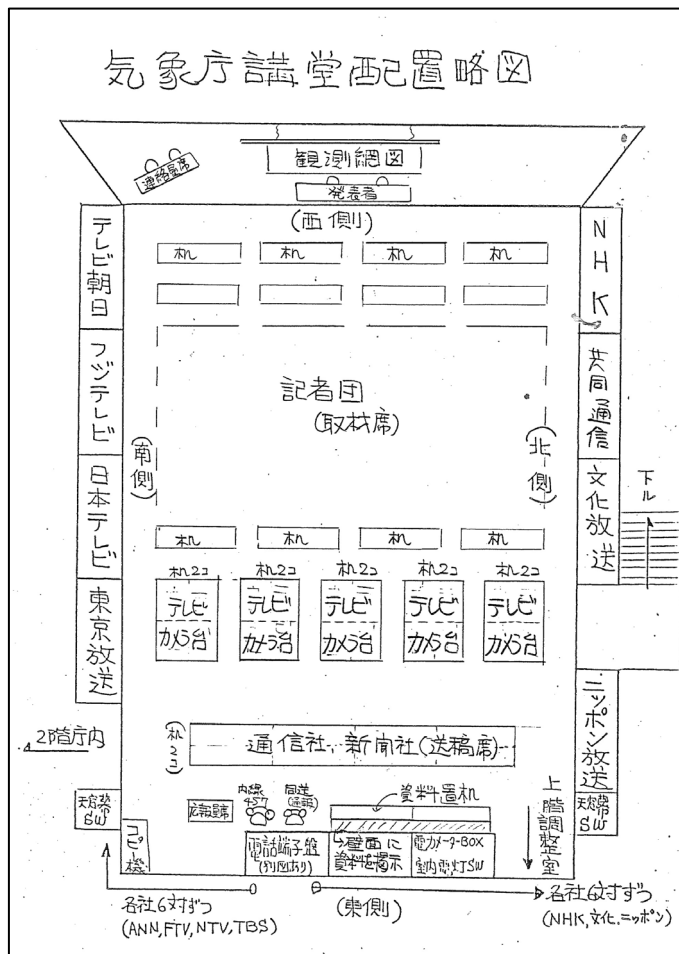


図 1-7-8 東海地震の緊急会見を想定した気象庁講堂配置図（昭和57年当時）



図 1-7-9 拡張された記者会見室（平成14年3月：大手町庁舎1階）

# 写真集（緊急会見）

## 地震・火山



図 1-7-10 日本海中部地震の緊急会見（昭和58年5月26日：記者会見室）



図 1-7-11 日本海中部地震のTBSテレビ中継（昭和58年5月26日：気象庁講堂）

# 写真集（緊急会見）

## 地震・火山



図 1-7-12 伊豆大島噴火の緊急会見（昭和62年11月16日：気象庁講堂）



図 1-7-13 三宅島噴火の緊急会見（平成12年6月29日：記者会見室）

## 写真集（緊急会見）

駿河湾の地震：初の「東海地震観測情報」発表



図 1-7-14 大規模地震対策強化地域判定会会長の到着を待つ報道陣  
(平成21年8月11日：気象庁1階)



図 1-7-15 記者クラブ代表社による判定会委員打合せ会の冒頭撮影  
(平成21年8月11日)

## 写真集（緊急会見）

駿河湾の地震：初の「東海地震観測情報」発表



図 1-7-16 東海地震観測情報の緊急会見（平成21年8月11日：気象庁講堂）



# 写真集（緊急会見）

## 東北地方太平洋沖地震



図 1-7-17 5回目の緊急会見（平成23年3月12日0時40分：記者会見室）

# 写真集（緊急会見）

## 東北地方太平洋沖地震



図 1-7-18 気象庁ビル前の報道陣、テレビ中継車（平成23年3月12日0時10分）

# 写真集（緊急会見）

## 新型コロナウイルス感染症対策時



図 1-7-19 国土交通省との初の合同会見（令和2年7月4日：記者会見室）  
（マスク着用）



図 1-7-20 台風第10号の今後の見通しに関する緊急会見（令和2年9月5日：気象庁講堂）  
（マスク着用し記者会見室より広い講堂で開催）

# 写真集（緊急会見）

## 新型コロナウイルス感染症対策時



図 1-7-21 桜島噴火（噴火警戒レベル5）の緊急会見（令和4年7月24日：記者会見室）  
（透明マスク着用）

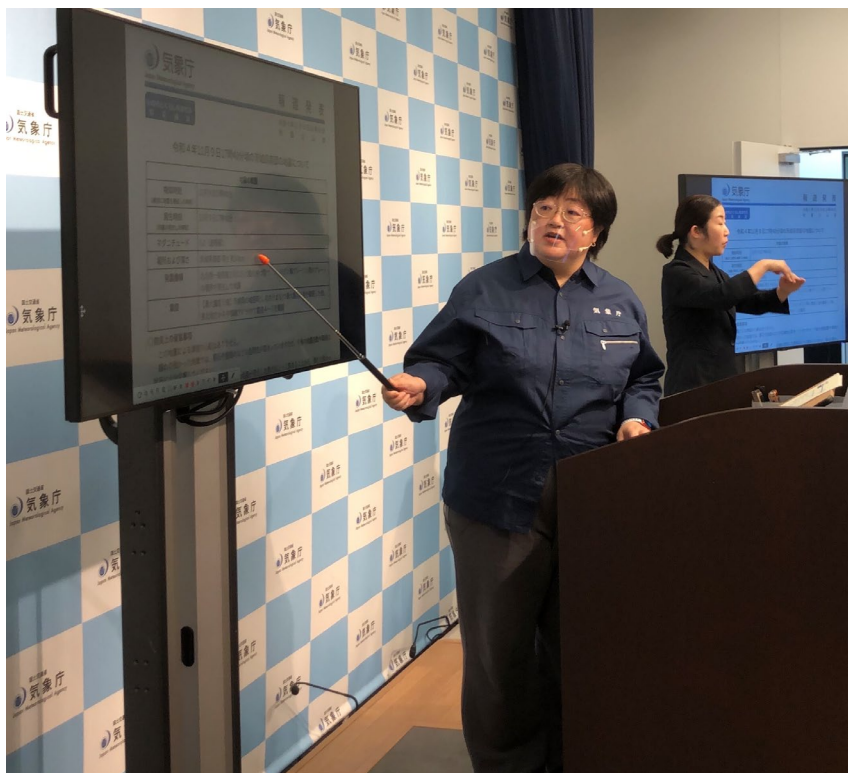


図 1-7-22 茨城県南部（震度5強）の緊急会見（令和4年11月9日：記者会見室）  
（透明マスク着用）

## 写真集（緊急会見）

日向灘の地震：初の「南海トラフ地震臨時情報」発表



図 1-7-23 南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会会長の到着を待つ報道陣  
(令和6年8月8日：気象庁1階)



図 1-7-24 記者クラブ代表社による評価検討会の冒頭撮影（令和6年8月8日）

# 写真集（緊急会見）

## 日向灘の地震：初の「南海トラフ地震臨時情報」発表



図 1-7-25 「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」発表時の緊急会見（令和6年8月8日：記者会見室）



図 1-7-26 臨時情報発表から1週間後の内閣府との合同会見（令和6年8月15日：気象庁記者会見室）

## 8. 儀式・典礼

### 資料集（気象記念日関連）

#### 第一回気象記念日次第

気象記念日を制定したいと云ふことは、兼てから話に伺つてゐたが、愈々それが軌道に乗つて具體化し、本年六月一日に其の第一回記念日を開催することになつたことは、先日中央氣象臺の發した通牒の通りである。當日は中央氣象臺を始め、全國の各氣象官署でも、それ／＼相應の行事を營む筈であるが、次に中央氣象臺での模様を略記して、地方の皆さんへお傳へする。

此日午前八時に登壇すると、大玄關には二旒の國旗が吾々の心持のやうに愉快に風に靡いてゐる。式の開始は午前九時三十分だから、早急の用務をそれまでに處理する爲各課とも業務に忙しい。やがて振鈴が鳴つて全臺員が當日の式場たる大食堂に參集した。氣象技術官養成所の教職員生徒も參集したから、さしも廣い食堂は人で埋まつた。恐らく二千人近い數であらう。

劈頭入江總務課長は開式を宣し、養成所の河崎教官の活潑な號令で宮城遙拜、國歌を齊唱し、戦歿負傷勇士への感謝、第一線で活躍中の皇軍將兵に對する武運長久の祈念等の行事を行つた後、次で別項記するが如き藤原臺長閣下の式辭があ

つた。入江書記官が閉式の辭を述べてより引續き岡田前臺長閣下の有益な御訓話を拜聽した一同は、新たなる心構へと希望に胸を波うたせながら、十一時前式場を退散した。午後は各課に於て事務の差支ない限り神社參拜、運動競技、社會見學乃至は課内常會の如き敬神思想の涵養、健康増進・心身鍛鍊・修養練習等凡そ時局下に應はじい計畫を實施して、有意義に費すやう通知を受けてゐる。殊に上司の方々の御配慮で當日上等の祝酒が入手されたので、各課へ配給され、一同は時節柄全く豫期せざる好遇に、明朗な氣分に浸ることが出来た。女子職員も多數ゐるので、お芋の馳走が出て、これも物資難に苦しめられてゐる在京人にとつては、非常な福音である。偶然ではあつたが、此日汪國民政府の特使褚氏外隨員一同が晴れの宮城參内をされたので、在京の學生生徒よりなる大團隊が音楽隊を先頭に氣象臺前を勇ましく行進してゐる。これによつて氣象臺は恰かも内外から慶祝の洗禮に浴した觀があつた。

此外に吾々にはもふ一つの別の喜びが與へられた。それは中央氣象臺の觀測船凌風丸が去る一月以來帝國海軍所屬船として某任務に就き、〇〇方面に於て非常に勇猛な活躍を續けてゐたが、去る二十七日乗組員一同は極めて元氣な姿で芝浦

図 1-8-1 測候時報 第13卷 第6号抜粋（第一回気象記念日について）（1/4）

埠頭へ凱旋したことである。服役中は勿論軍人に劣らぬ危険と心勞とを重ねられたことで、吾々は中野船長以下全船員に對し心からなる感謝の詞を捧げる。丁度此日はこれ等の歸還勇士を迎えたので、藤原臺長の主催で各課長連が集合し、午餐會を催した。料理は純日本式で臺内の食堂の調理になる近頃では珍しい程の上等、殊に酒は凌風丸の齎した遠來の逸品と來たから堪らない。中野船長の御土産談を承りながら杯を傾け、筆者も幸ひ此會に出席した一員であつたので近頃のない愉快を覺えた。即ち中央氣象臺は此佳き日に於て二重の慶祝を迎えたのである。（山田）

藤原臺長の式辭

大東亞戰爭が勃發しましてよりこのかた以來、東亞に於ける、米英の侵略據點は、悉く覆滅せられました、大東亞共榮圈、建設の大業は、すでに、力強く、その巨歩を踏み出したのであります。この驚異的戰果は、御稔威の下、忠勇なる帝國將兵の、勇戰敢闘の賜であり、一億國民の感謝且、感激に堪へない所であります。

「み民吾生けるしるしあり」の歌の通り、此の輝しき聖代に生れ合はせ、茲に氣象記念日制定後最初の記念日を迎へ全臺

員舉つて此の記念式を舉行する事を得ますことは誠に感慨の深きを覺ゆる次第であります。

由來氣象は人類生活の上に至大なる影響があり、其研究は平時に於て産業及文化の上に緊要である事は勿論であります。が、戰時に於て軍事目的完遂上絶対不可缺の關係にある事は申すまでもありません。

支那事變勃發以來我が國氣象事業の整備擴充は、急速に實現せられ、時局に貢獻しつゝあるのは誠に御同慶に堪へませぬ。今次大東亞戰爭の進展に伴つて、氣象事業の重要性は頓に増大し、氣象諸施設は急激に擴大強化せられ、今將に大東亞共榮圈内に氣象體制の確立を見んとするに至つたのは、洵に今昔の感に堪へないものがあると共に、吾等の責務が極めて重大なるのを痛感するのであります。

顧みれば、明治八年六月一日に、東京氣象臺が創立せられたから、茲に六十有八年、我が國氣象事業は、年を趁ひて發展し、遂に今日の隆盛を見るに至つたのであります。これは固より皇國の隆運に因るとは申せ、亦歴代の、臺長閣下、並に、先輩諸士の獻身的努力の賜でありまして、吾等斯業に従事し、先人の業を繼承する者は、先人創業の精神と其の遺風とに憶を致します時、自奮自勵、粉骨碎身の念を、新たにす

図 1-8-1 測候時報 第13卷 第6号抜粋（第一回氣象記念日について）（2/4）



るものであります。今や大東亞戦争が勃發し國を擧げて戦争の完遂に邁進するに際會致しまして吾等氣象事業の従事者と致しまして固より此の歴史的大轉換期に於ける覺悟を緊むる要を痛感するのであります。此際一番大切なことは何でありますか。幸に戦は勝つて居ります。勝に臨んで一番恐るべきは心の驕りであります。即吾々は兎もすれば浮き立たんとする輕薄な心を慎む爲に常に先輩創業の苦心を以て心としたのであります。吾等の先輩が臥薪嘗膽の道を歩かれたのを常に心に銘したのであります。依りて彼の氣象臺創立の日たる「六月一日」を以て氣象記念日と致し、爾後毎年、この日に於て全國氣象業務員は適當な行事によりて、一方傳統たる測候精神を昂揚すると同時に、一方又氣象報國の覺悟を新たにしたいと、念願する次第であります。

今や帝國は聖戰最後の勝利を確信し巨大なる建設戦を完行しつゝあります。即ち肇國の精神の下東亞の諸國諸民族を率ゐて共榮の實を擧げねばなりません、而して是れ等は總て科學的技術的な知識の上に打ち樹てられなければなりません。實に此建設の大事業は日本精神と日本科學とが一體となつて甫めて可能であります。此の日本精神に立脚した科學的大建設戦に對する氣象業務の重要性は今更申述ぶるまでもなく絶

對不可缺のものであります。従つて今後情勢の展開に従つて益々多數の氣象職員が北に南に東に西に廣域大東亞圈の氣象陣營に向つて出掛けて行く事になるのは必然の勢であります。かかる情勢に對して大に心を引き締め斯の大使命を成就しなければなりません。

この際尙聊か測候精神について申し上げます。即觀測に當つては一秒と雖も忽にしてはいけない、如何なる天災地變と雖も決して觀測を抛棄しない、一回の缺測も永久に之を補ふことは出来ない。一厘の誤測も實に後世を誤るものであることを銘記する事等であります。私は嘗て之を敷衍して次の様に述べた事もありました。

- 一、觀測精神ハ要スルニ至誠及ビ確實ニ歸ス
- 二、自然現象ニ偽リナシ、觀測者ガ常ニ忠實深切ヲ旨トシテ自然ヲ觀測記録スレバ臆テハ之ヲ體得シ勉メズシテ自ラ至誠ナルヲ得ルニ至ル
- 三、自然ハ單純ニシテ而モ複雑ナリ、常ニ觀測ヲ緻密ニシ觀察ヲ尖銳ナラシムレバ遂ニハ自然ノ妙趣ニ透徹スルニ至ル
- 四、自然ハ不規則ナルガ如クニシテ却ツテ正確ナリ。熱心ナル觀測ノ結果ハ自然法ノ如何ニ峻嚴ニシテ人智ノ如何

図 1-8-1 測候時報 第13卷 第6号抜粋（第一回氣象記念日について）（3/4）

ニ淺薄ナルカヲ知ルヲ得、延イテハ敬虔ノ念ヲ養ヒ傲慢ト點詐トヲ除クヲ得ベシ

とも記述したのでありますが、之れ等總ては故中村前々臺長閣下又岡田前臺長閣下等から親しく授けられた所でありまして、私のみならず吾同僚諸君の等しく御承知の事ではあります。が急激の膨脹により多數の新らしい方若い方々も居られる事故老婆心から申し上げる次第であります。今次皇軍の大勝利は既に一般にも良く御承知の様に日本精神の勝利で又日本科學の勝利であり結局不可分なる此兩者の勝利であります。

日本刀から日本精神を取り去ればもはや日本刀ではありません。日本科學を取り去つても同様であります。即此精神と科學とは表裏一體本來不可分のものであります。

吾等氣象事業に従事する者もこの烈々たる日本精神を吾々業務上に具顯した即ち測候精神を以て經となし、日本氣象學の精果である日本氣象技術を以て緯とし我が同業先人の手振りを學び、研究に勉め全氣象職員が打つて一丸となり總力の向上充實を圖り以て國家が吾等に要望する所に應へなければならぬと存じます。

茲に氣象記念日を制定した其の第一回記念式に當り一言式辭とする次第であります。終り

當日岡田先生のなされた御訓話は不幸にも其の全文を御傳へすることが出来ないが、其の大要は御大詔中の百僚有司に對する御教訓に就き吾等の覺悟を御示しになり、業務の傍らには零碎な時間をも無駄なく利用して研究を遂げねばならぬこと、又日常吾等の心掛としては感謝と希望を持ち、他人に接しては如何なる場合でも相手の誇りを傷けぬことを念とすべきであることを懇々と御訓しなされて、一同は深い感銘の裡に承つたのである。（山田）

図 1-8-1 測候時報 第13卷 第6号抜粋（第一回氣象記念日について）（4/4）

# 資料集（氣象記念日関連）

## ○氣象記念日制定ノ件

中央氣象台長通牒（昭和十七年五月）

支那事變勃發以來我國氣象事業ノ整備擴充急速ニ實現セラレ些方時局ニ貢獻スルヲ得候ハ誠ニ御同慶ニ堪ヘザル所ト存候今次大東亞共榮圈ニ對スル皇國ノ使命ニ伴ヒ軍事交通、産業其他文化ノ凡ユル部門ニ於テ愈々本事業ノ重要性加重シ來リタルニ際シ別紙趣意書ニ基キ本年以降毎年六月一日ヲ以テ氣象記念日トナシ例ヘバ左記ノ如キ行事ヲ實施シ其ノ意義ヲ強調致候條右趣旨達成方御協力相成度

此段及通牒候也

追而本年ハ諸般ノ都合ニ依リ本臺ニ於テハ記念式舉行ノミニ止メ候間申添候

記

一、記念式

二、表彰

三、展覽會、講演會等ノ開催

四、其他

## 趣意書

今次大東亞戰爭ノ進展ニ伴ヒ氣象事業重要性頓ニ増大シ氣象諸施設ハ急激ニ擴大強化セラレ將ニ大東亞共榮圈内ニ氣象體制ノ確立ヲ見ントスルニ至ル吾等ノ貴務重且大ナルヲ痛感スルト共ニ洵ニ今昔ノ感ニ堪ヘザルモノアリ

願ミレバ明治八年六月一日東京氣象臺創立セラレテヨリ茲ニ六十有八年我國氣象事業八年ヲ趁ヒテ發展シ遂ニ今日ノ隆盛ヲ見ル、是固ヨリ皇國ノ隆運ニ因ルト雖モ亦歷代臺長竝ニ先輩諸士ノ獻身の努力ノ賜ナリ吾等斯業ヲ繼承スル者先人創業ノ精神ト其ノ遺風トヲ憶ヘバ自奮自勵粉骨碎身ノ念ノ新ナルヲ覺ユ茲ニ同僚諸賢ノ賛成ヲ得テ此氣象臺創立日タル「六月一日」ヲ以テ「氣象記念日」ト定メ全國氣象官署一齊ニ行事ヲ行ヒ以テ傳統タル測候精神ヲ昂揚シ氣象報告ノ覺悟ヲ新ニシ進ンデハ以テ國家ガ吾等ニ要望スル所ニ答フルアラントス若シ夫レ具體的方法ニ關シテハ各其時所ニ即シテ以テ宜シキヲ得レバ可ナラン一言以テ趣旨ヲ述ブルト云フ

図 1-8-2 中央氣象台長通牒（昭和17年5月）（氣象記念日制定の件）

# 資料集（百周年記念事業関連）

## 一世紀を迎えた気象事業

—百周年気象記念日を祝う—

曇り空ながら、まずまずの天気恵れた6月2日（月）、東京商工会議所4階のホール（東京・千代田区丸の内）で、気象百年記念式典が挙げられた。

今年は創立百周年ということで、運輸大臣主催となったので、来賓も元運輸大臣、元事務次官、元政務次官、国会議員、関係省庁の幹部など広範囲にわたった。一方、被表彰者も20年、30年の永年勤続のほか、親子3代にわたる気象職員や部外依託観測者など例年とはちがった顔ぶれが見られた。

定刻10時、持田総務課長の司会で式典は始められた。国歌斉唱に続いて、木村運輸大臣は次のような祝辞をのべた。

### 木村運輸大臣あいさつ（要旨）

「本日ここに、来賓多数のご参列をいただき気象百年記念式典を挙げることは、私の最も喜びとするところである。

日本の気象事業百年は、明治8年6月1日に東京気象台が創立されてから今日まで、諸先輩の献身的な努力、終始変らざるご理解、ご援助をいただいた多くの関係者、また、日夜を分かたず気象業務の第一線で活躍している職員の情熱により、一刻の休みもなく歩み続けて迎えたものである。

今日、表彰を受ける皆さんは、長年気象業務に精励し、気象災害防止軽減に寄与された方、あるいは業務上の研究に優れた成果を挙げた方々であり、その苦勞に対し敬意を表する。

さて、気象庁の業務は、気象、地象、水象に関する観測、予報、警報など多岐にわたっているがそのもとは、国民を災害から守ることである。

最近には特に集中豪雨災害防止、異常気象などの解明が要望されている。この要請を満すために大型電子計算機など最新の科学技術を導入して、業



勤続30年を代表して運輸大臣から表彰状を受ける大竹技官

務の整備を進めてきている。

気象百年のこの記念すべき日にあたり、我々は今一度気象業務に課せられた使命を認識し、その達成に心がけてほしい。」

このあと表彰式に移り、20年勤続の代表として矢田 明技官（気象衛星課）、30年勤続の代表は大竹市郎技官（長期予報課）が緊張した面持ちで大臣から表彰状を受けた。

続いて、特殊功績として親子3代（元測候技手 渋山為雄氏＝故人＝、元測候技手 渋山信雄氏及び運輸技官 渋山勝一郎氏＝境測候所勤務）にわたり気象業務につくした功績として、渋山信雄氏の名前が呼び上げられたときは、会場を埋めた400名余りの参列者からひととき大きな拍手とともに新聞社、テレビ会社のライトが輝いた。一步一步階段を登り、大臣の読み上げる表彰の言葉を聞く渋山さんの背中には、心なしかふるえていた。

過し日、亡父から受けついで気象観測の火を、更に子息へとバトンタッチした長い年月の一コマが、走馬灯のように脳裏をかすめたのではあるまいか。

この日、大臣表彰をうけた永年勤続は、全国で359名（20年・102名、30年・257名）。特殊功績3件。長官表彰は、特殊功績34件（一般の部14、船舶の部16、漁船の部4）であった。

式典は予定どおり10時40分に無事終了し、

図 1-8-3 部内広報紙 昭和50年6月（気象百周年記念式典）（1/6）

# 資料集（百周年記念事業関連）

そのあと、8階のスカイルームで開かれた運輸省、気象庁、日本気象協会3者共催による祝賀パーティに臨んだ。

例年のことながら、元気象職員が大勢顔を見せ三々五々、あちこちで懐旧談に花を咲かせていたが、中でも、第4代中央気象台長の岡田先生の片腕として活躍した奥山奥忠さんが、老くを息女に助けられながら出席したのが人目を引いた。

パーティは12時に終り、引続き地方上京者24名は、ハトバスによる都内遊覧に向った。

今年は、創立百周年ということで、最初はあれもこれもといろいろな行事が計画されたが、種々の都合で殆んどが中止となったが、一般に対する催物として、6月2～3日の2日間、気象観測船“啓風丸”を東京・晴海ふ頭で一般公開（両日で参観者約600名）。4日13時から、本庁講堂で「講演と映画の会」（約230名）。4日～7日まで本庁2階ロビーで気象協会、気象測器工業会共催による「測器展示会」（約800名）を開催し、ささやかながらも気象百年を祝った。

また、晴れある気象百年の年に運輸大臣、気象庁長官表彰を受けられたのは、次の方々である。

## 〔大臣表彰〕

- ・レーザーによる遠隔気象観測法開発の研究に対して

内藤 恵吉（49歳）気象研究所気象衛星研究部第3研究室長

- ・親子三代にわたり気象業務に尽くした功績に対して

渋山 為雄（故人）境測候所  
 渋山 信雄（63歳） 〃  
 渋山勝一郎（33歳） 〃

- ・海上気象観測通報に対して

千代田汽船株式会社 島 丸  
 （31,899トン 北洋航路  
 チップ運搬船）

## 〔長官表彰〕

- ・多年にわたる長期予報の開発に対して

和田 英夫 函館海洋気象台長

- ・桜島火山に関する研究に対して

永福 順則 鹿児島地方気象台観測課  
 第2火山係

- ・気象百年史の刊行にあたり業務の推進完成に対して

図書資料管理室職員一同

- ・多年にわたる検潮及び委託観測業務に対して

大井 滄勇（鳥羽検潮所鳥羽観測所）  
 （鳥羽市鳥羽町）

- ・親子3代（90年）にわたる気象観測に対して

佐々木友八郎（故人）（下田観測所）  
 佐々木 勝（〃）（〃）  
 佐々木 興平（〃）  
 （愛知県北設楽郡東栄町）

- ・親子3代（82年）にわたる気象観測に対して

興田 義雄（故人）（栗栖川観測所）  
 興田與左衛門（〃）（〃）  
 興田 としゑ（〃）  
 興田 きよ子（〃）  
 （和歌山県西牟婁郡中辺路町）

- ・親子4代（80年）にわたる検潮業務に対して

岡田 竹之助（故人）（鮎川検潮所）  
 岡田 宜太郎（〃）（〃）  
 岡田 直人（〃）  
 岡田 充（〃）  
 （宮城県牡鹿郡牡鹿町）

- ・多年にわたる気象観測に対して

渋谷 正吉（私設 平山観測所）  
 （山形県長井市）

- ・多年にわたる気象観測に対して

五戸農業気象観測所  
 （青森県三戸郡五戸町 青森県  
 畑作園芸試験場）

- ・多年にわたる気象観測に対して

宮内農業気象観測所  
 （山形県南陽市 県立農業試験場  
 置賜分場）

- ・多年にわたる気象観測に対して

米里観測所  
 （岩手県江刺市 江刺市役所 米  
 里出張所）

- ・優れた電子工学と通信技術により多数の地震観測機器の開発に対して

沖電気工業株式会社  
 （港区芝琴平町）

- ・多年にわたる観測通信器材の梱包輸送に対して

合資会社共進組  
 代表社員 秋葉茂雄  
 （墨田区墨田）

- ・漁業無線気象通報に対して

茨城県漁業無線局  
 （茨城県那珂港市）

- ・海上気象通報に対して（船舶の部）

汽船 日本水産株式会社（峰島丸）

図 1-8-3 部内広報紙 昭和50年6月（気象百周年記念式典）（2/6）

# 資料集（百周年記念事業関連）

山和商船株式会社（麗峰丸）  
日新汽船株式会社（第二十条丸）  
ジャパンライン株式会社  
（ジャパニーズ）  
日本郵船株式会社（木曾丸）  
新米船舶株式会社（かなだ丸）  
昭和海運株式会社（比叡丸）  
第一中央汽船株式会社（だあういん丸）  
日本海汽船株式会社（大海丸）  
板谷商船株式会社（若根山丸）  
大阪商船三井船舶株式会社（あじあ丸）  
国洋海運株式会社（東北丸）  
中村汽船株式会社（ロータス）  
廣海汽船株式会社（ジャパノールダ）  
川崎汽船株式会社  
（こうでんげいとぶりつじ）  
橋本海運産業株式会社（大真丸）  
漁船 山川漁業生産組合（第15和歌丸）  
浜田漁業協同組合（第5宇野丸）  
大洋漁業株式会社長崎支社（第1東海丸）  
（総務課，人事課）

## 気象百年を祝う

### — WMO・気象協会からあいさつ —

気象記念日の当日、WMO（世界気象機関）総裁 M. F. Taha 氏からお祝いのメッセージが寄せられ、式典参加者にご披露された。また、財団法人日本気象協会の井上五郎会長からもお祝いの言葉がのべられた。ここに、それを紹介する。

### 気象庁の発展を期待する

#### WMO 総裁 M. F. Taha

日本気象庁の百年記念にあたり、世界気象機関の総裁として、また私一個人としても、この意義深い慶事に際し、毛利気象庁長官ならびに職員の皆様に対し、ここに私の心からのお祝いを申し上げます。

日本気象庁は、前身である東京気象台の開設に始まる日本の気象業務は、着実に発展の道をたどり1885年には世界気象機関の前身である国際気象機関に加盟、また、1953年には現在の世界気象機関の加盟国となり、従来にも増して世界の気象のため重要な役割りを果たしている。

すなわち、1963年に東京が世界気象監視計

画の地域気象センター及び地区通信中枢となり、全世界に対して、いちぢるしい貢献をはたしてきている。

1965年には富士山頂に強力な気象レーダーを設置し、また、現在は静止気象衛星打上げの準備を進めていることなどは、日本が気象の進歩発展の先端を行っていることを良く示している。

この日本気象庁百年記念式典に世界気象機関の祝意を表するとともに、私は過去100年間に、日本が気象の分野で、国の内外に築き上げた非常に高度な実績を維持し、今後100年間にこれに勝るともおとらざる進歩と発展によって、いこうとられることを深く信じ、また、希望いたしていることを申し上げて、挨拶とする。

### 精度の高い気象情報を

（財）日本気象協会会長 井上五郎

本日ここに気象百年式典に参列できたことをうれしく思っている。

明治8年、東京気象台においてお雇い外人のもとに気象事業が始められたが、100年たった今日、WMO（世界気象機関）の中の責任国となり、また、歴代長官は執行委員としてWMOの運営に力をそそいできた。このことは、諸先輩、職員の努力のたまものであり測候精神の現われである。

第2次世界大戦以前は、天気予報の精度向上に力をそそいできたが、現在では、広く地球物理学的な能力向上と行政官庁としての能力充実を力をそそいでいる。特に、社会が気象庁に対する要望は多様化しており、地震対策、異常気象の解明がいそがれている。

このため、広域地震監視システムや地震計の整備、気象レーダー、AMeDAS（地域気象観測システム）、パイロペットなどの展開、国際協力の一環のGMS（静止気象衛星）打上げが着々と進められており、その完成が望まれている。

また気象情報提供も多岐にわたってきている。特に一昨年末の石油ショック以来、天気変化もエネルギー問題との関連から大きくクローズアップされてきて、より精度の高い気象情報の提供が要求されつつある。

100年を迎えた今日、気象災害防止軽減はもちろんのこと、気象情報の提供に努めてほしい。

図 1-8-3 部内広報紙 昭和50年6月（気象百周年記念式典）（3/6）

# 資料集（百周年記念事業関連）

## 盛大であった

### 気象百年記念行事

気象庁では創立百周年記念を機会に気象業務の現状を広く、多くの国民に知ってもらうため、気象観測船「啓風丸」の一般公開、「講演と映画の会」、「気象測器展示会」を開催した。報道機関のPRがいきとどいたのか、平常の日にもかかわらず、多数の方が見学に来た。

おかげで、係員は説明や整理に汗だくという、うれしい悲鳴を上げた。

ここに、記念行事の様子的一端をお伝えする。

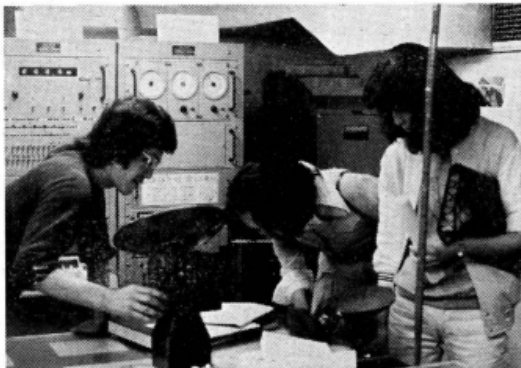
## 近代的な観測船に驚く

気象観測船「啓風丸」の一般公開が6月2日(月)3日(火)の両日午前10時から晴海ふ頭において行われた。観測船の一般公開は、すでに何度か行っているが、100年ということでもた格別の感があった。

空は鉛色に覆われ、朝のうちは涼しかったが次第に蒸し暑くなってきた公開日、「啓風丸」(松野船長以下53名乗組み)は、5月上旬23日間の予定でオホーツク海(気象・波浪)観測のため出航し、霧や寒さに遭いながら無事任務をおえて2日朝晴海ふ頭にイカリをおろしたばかりである。

休む暇もなく早速船員と本庁から駆けつけた職員とで船内清掃、機器の表示、順路(矢印)、船の中央部に看板を取りつけブリッジをおろした。そして受付にパンフレットを用意するというあわただしさだった。

やがて定刻となると三々五々、見学者がブリッジを登りパンフレットを手に、係員の指示に従い次々と船内に吸い込まれて行く。中にはいと高



電子計算機で処理された高層気象資料の見方を聞く見学者(啓風丸にて)

層観測や気象レーダーなど、くいいるように見入る人。なかには船のマニヤや気象に熱心な人が係員に問いかける。「この船はどの辺まで行くのですか、何人ぐらい乗るのですか」など。

一方では船の構造を詳しく聞いてパンフレットを求める人もいた。また年輩のご婦人が「こういう船で気象観測をやるのですか。大変なことですね。でもマンションみたいね」とさすが女の人らしく身近なことをとり上げて話していた。

こうして2日間にわたる公開も見学者580名を数え、15時の公開終了の船内スピーカーにより最後の一人がブリッジをおりて無事終了した。

(総務課)

## 100年の歩みをふり返えて

6月4日(水)、13時から気象庁講堂で、東海大学教授の荒川秀俊博士(元気象研究所長)をお招きして、「気象事業百年の歩み」と題した講演を行っていただいた。

当日、講演の始まる前にはすでに200人からの人が入場し、会の始まるのを待っていた。

講演に先だち、毛利長官から「気象庁もやっと百年を迎えた。今日、国民の皆様が親しまれ、励まされ、ある時はおしかりもうけているが、これは、皆様のご援助のたまものと考えている。

現在、集中豪雨監視体制の強化や静止気象衛星の打上げなど、大きなプロジェクトを進めている。これにより気象業務も大きく飛躍することとなるので、国民の皆様の一層のご協力をいただきたい。」とあいさつを行った。

引き続き、荒川博士の講演に入った。講演の内容は、「明治8年創立当時のいつ話、天気予報発表に際し、現在のような広範囲の天気図や気象学の発達がなかったため、たいへん苦労をした様である。また、気象業務が国営移管になる前は、大政官布告に、たった一行書いてあっただけで、その解釈がまちまちのため、全国的な統一がなかった。この点が一番大きな問題となって現われたのが、昭和9年9月の室戸台風である。当時の大阪気象台は、中央気象台直轄でなかったため、予報や注意報、警報の発表がスムーズに行かなかったしその後の調査にしても大きな障害となった。

昭和14年になって全国の気象台が中央気象台の直轄に移し変えられ、業務が一本化できるようになり、予報精度の向上、情報提供の迅速化が進

図 1-8-3 部内広報紙 昭和50年6月(気象百周年記念式典) (4/6)

# 資料集（百周年記念事業関連）



荒川博士の講演を聞く聴衆者（気象庁講堂にて）

められた。

その後、第二次世界大戦突入で気象管制がしかれ、国民の前には予報も天気図も発表されず、気象業務の暗黒時代であった。終戦と同時に気象管制も解除され、国民を主体とした気象業務が始められた。しかし、国民からの気象への要望や知識の普及などにすべて対応できなかった。これをカバーするために財団法人日本気象協会も誕生し、今日の姿になっている。

今、気象庁では、雨の即時通報体制の確立や国際協力の一環として静止気象衛星打上げなど大きなプロジェクトをかかえているが、この整備に伴う気象業務の発展には、過去100年の動きをうまわるものが期待できる。」と、日本の気象事業のスタートから現在、そして数年先の気象事業までを予定時間の2倍をついやしわかりやすく、時にはユーモアもまじえての講演で聴衆を魅了した。

講演終了後、今年の3月完成したばかりの科学映画「異常気象一大気の流れをめぐって一」を上映した。内容は、ジェット気流の流れを中心に北極の寒冷化現象をさぐっていくもので、一般の方にはちょっとむずかしいようであったが、異常気象とは何か、その原因は、ということが何となくわかってもらえたようだった。

講演が40分、映画・異常気象が30分の後は肩のこらない楽な気持ちで見てもらえる劇映画「すばらしき飛行機野郎」（20世紀フォックス制作）を上映、爆笑につく爆笑でこの会は終わった。

（総務課）

## 気象測器も

### エレクトロニクス時代に

講演と映画の会が開かれた6月4日（水）から7日（土）までの4日間、気象庁ビル2階のロビーで、日本気象協会（財）と気象測器工業会主催の「現用測器の展示会」が開催された。

この展示会は、現在広く使用されている気象測器にはどのようなものがあるのか、その使用場所は、観測資料の収集方法や利用方法を実物の測器に手をふれてもらいながら、理解してもらおうという企画であった。

出展品は、エレクトロニクスをフルに利用した超音波風向・風速計、波高計をはじめ、大気汚染観測に活躍している低層ゾンデ、カイツーン、微風計など23社から約100点におよぶ気象測器が展示された。

新聞などでこの展示会を知った人が、多数見学に来て、一様に昔と比べて気象測器が大きく近代化したことにおどろいていた。特にエレクトロニクスが気象分野にも広く普及していることに感心していた。また、これらの測器が普段の生活の中ではあまり目にふれないが、実際には、農業、治水、治山事業、産業、交通などの多方面にわたり、裏方としてその広範な利用にもおどろいていたようである。

見学者の中には、展示した測器の仕組み、利用範囲、データの収集方法とその使い方など熱心に係官に話しを聞いたり、一つ一つメモを取る人も大勢いた。

学校の先生は、学校で行う気象観測の方法、測器類、記録のまとめ方などについて係官と活発な意見交換とアドバイスを受けるという風景も見うけられた。



大気汚染調査に欠かせない低層パルソンの仕組みを見る（気象庁2階ロビーにて）

図 1-8-3 部内広報紙 昭和50年6月（気象百周年記念式典）（5/6）



## 資料集（百周年記念事業関連）

そのほか、気象庁が現在おし進めている地域気象観測システム（AMeDAS）、静止気象衛星計画や毎日発表している天気予報の仕組み、その利用方法、台風の位置や地震の震源決定の方法など生活にむずびついた質問も多く、関係者はその対応におおわらわであった。

4日間にわたる測器展示会に、約800名の人  
が参観、1つ1つの測器を熱心に見ていった。

（総務課）

### 気象百年史を再発行 好評に応えて一般に頒布

気象庁創立百周年を記念して作られた気象百年史は、気象官署をはじめ関係官公庁、一部の大学図書館などに対し、気象庁から配布し、また、気象職員や元職員に対しては希望をつのって、日本気象学会から実費で頒布した。

百年史の実費頒布は、種々の事情から気象庁関係者に限っていたが、刊行後、入手していなかった職員や刊行を伝え聞いた部外者から、ぜひ、分けて欲しいという希望が相次いだ。

また、ある新聞社の記者からは、岩田次長に対し「このような良いものを気象庁関係者だけに限るのはもったいない話だ。気象に関心をもっている人は大ぜいいるのだから、広く呼びかけてやるべきではないか」という意見をよせて来た。

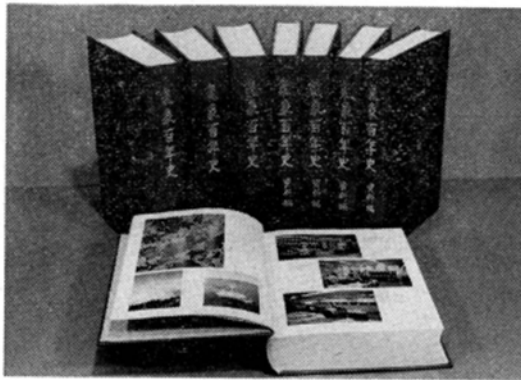
気象庁としても、予想外の反響にとまどいながらも、再発行して希望者に行き渡るようにすべきだと判断し、できるだけ当初の価格で再版するよう、日本気象学会に提言した。

学会では、これをうけ種々検討をしていたが、6月9日の理事会にはかり、再版することを正式に決定し、気象庁にその旨回答するとともに実施

に当ってはできるだけの協力を得たいと要請があった。

気象庁では、気象事業の普及にもなるという見地から、できるだけの協力をすることにした。

気象学会では、気象百年史の一般頒布は今回の再版を最後に絶版ということも考えられるので、この機会に一人でも多くの希望者に渡せるようにしたいと、各気象官署から地元の図書館、官公庁、学校などに呼びかけて欲しいとっている。これに関する案内は、後日、各官署に送付することになっている。



再発行がきまった気象百年史と資料編

図 1-8-3 部内広報紙 昭和50年6月（気象百周年記念式典）（6/6）

